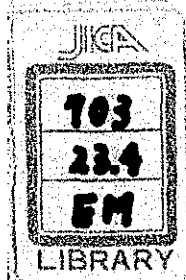


(業務資料No. 209)

# ブラジル技術移住者実態調査

1972年3月

海外移住事業団



EM

国際協力事業団

受入 月日 '84. 4. 10	703
登録No. 03147	23.4
	EM

000000

## は し が き

本調査は、3年前の昭和43年度に実施した技術移住者実態調査に次ぐ、第2回の実態調査である。

今回は、昭和36年度から昭和45年度までの10年間に当事業団扱いによりサンパウル支部管内に移住した597名全員を対象とし、その実態 — 就労環境、待遇、生活、移動、独立状況、移住に関する感想等 — を把握することに主眼をおいた。

実質的調査期間が約3ヶ月と短かったため、集計までに間に合った回答は202名で、全体の約3分の1であったが、その後も回答は寄せられており、本調査の結果、これまで推測に過ぎなかった事柄についても、多くの貴重なデータを得ることができた。

本報告書は、202名の回答について、取り急ぎ取り纏めたため、単純な分析にとどまったが、今後の技術移住推進上何等かの参考になれば幸いである。

この調査は、技術移住者のプライバシーにわたる事柄も多く、調査員の説明不足もあってか、一部に調査拒否もあったが、大多数の技術移住者からは心よく協力をいただいた。また、日系の各企業には、貴重な操業時間をさいて、本調査に協力していただいた。

ここに、これら本調査に協力いただいた技術移住者、企業関係者、秦野会幹部各位に対し感謝の意を表す。

昭和47年3月

海外移住事業団

業務第一部長

JICA LIBRARY



1024375[6]

この調査資料を理解するための参考事項

1. 諸指標

区分	最低賃金 サンパウロ第一区	生計費上昇率 サンパウロ市	CR\$の対ドル レート下落率	1CR\$相当円額 毎年末現在	備考
年	CR\$	%	%	1ドル360円として 195円	
1964	42	85.6		164	
1965	66	41.2	21.4	164	
1966	84	46.3	17.8	133	
1967	105	25.3	20.5	95	
1968	129.60	25.2	20.3	83	
1969	156	22.6	12.9	73	
1970	187.20	17.5	13.7	64	本調査時
1971	225.60	20.6	15.4	1ドル308円として 55	円切上げ後

2. 調査時の物価（1 CR\$ 64円として）

次の物価は、この調査結果を理解するための一つの目安として掲げたものであり、厳密な意味はもたない。またこれはサンパウロ中心街における物価であり、技術移住者の多い近郊都市においては、食費、住居費は割安となる。

区 分	価 額	円相当額
バス料金（1回）	0.45 CR\$	29 円
タクシー料金（1.2Kmまで）	1.00	64
卵1ケ（上）	0.20	13
牛乳1ℓ（普通～上）	0.70～1.20	45～77
米1Kg（上、カテテ米）	2.00	130
牛肉1Kg（上、コントラフィレ）	8.00～	512～
ビール1本（ピン別）	1.50	96
タバコ1箱（20本入 フィルター付）	1.20～2.80	77～179
背広上下（既成品）	250.00～	16,000～
ワイシャツ1着（テトロン）	25.00～	1,600～
テレビ1台（白黒12吋 国産）	800.00	51,200
冷蔵庫1台（家庭用大型 150ℓ）	1,000.00	64,000
下宿代月額（食事付合部屋）	210.00	13,440
アパート月額（サンパウロ中心街） 1居間2寝室	500.00 ～1,000.00	32,000 ～64,000

3. 職種分類

調査結果を取り纏める便宜上、職種を次のようなグループに分類した。前回の調査と異なるのは、「その他」と独立「自営」者を加えたことである。

生産部長、工場長等管理職にあるものもそれぞれ本人の職種に分類した。但し部長等の地位にあって

も本人が共同経営者として独立自営と記入したものは本人の申告に従った。これは技術者、技能者の分類の場合も同様、本人の申告に従った。

(1) 技 師

機械、電気、電子、冶金等の技術者。

(2) 設計・検査

各種設計製図技能者、各種検査工、品質管理者、生産管理技能者等。

(3) 電気技能者

電気機器組立調整工、ラジオ、テレビ技能者、電気工等。

(4) 治工具・金型

治工具工、金型工。

(5) 機械仕上

機械工、仕上工、製作工、溶接工、鋳造工、木型工、木工、板金工等。

(6) そ の 他

貿易業務、管理事務、銀行員、商業等で(1)~(5)に属さないもの。

(7) 自 営

各種独立自営者（共同経営者を含む）

# 目 次

I. 調査方法の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査対象と調査方法等	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査対象者の推定分布状況	1
(3) 調査方法	2
(4) 調査時期	2
II. 基礎調査結果の概要	3
1. 回答者の概況	3
(1) 回答総数	3
(2) 年度別就労先	4
(3) 職種別就労先	4
(4) 学歴別内訳	5
(5) 年齢構成	5
(6) 未・既婚の別	6
2. 移動状況	6
(1) 年度別転社状況	6
(2) 職種別転社状況	7
(3) 退社理由	8
3. 給与	9
(1) 年度別、職種別平均給与	9
(2) 職種別、就労先別平均給与	9
(3) 給与額別職種別分類	10
4. 資産状況	10
5. 住宅事情	11
6. 帰化状況	12
7. 独立自営状況	13
(1) 業種	13
(2) 資本金および全額自己資金、共同出資の別	13
(3) 従業員数	14
(4) 着任後独立自営までに要した期間	14
(5) 月平均売上高	14
(6) 独立自営地域	14
III. アンケート調査結果の概要	15
1. 就労状況と意識	15

(1) 現在の会社を選んだ理由	15
(2) 現在の職場に満足していますか	15
(3) 給与は他の従業員と比較し妥当に評価されていると思いますか	17
(4) 給与は他社と比較し妥当と思いますか	17
(5) 現在の仕事はあなたの技能に適していると思いますか	17
(6) 現在の会社は完全な能力主義と思いますか	18
(7) 転社希望の有無	18
(8) 独立希望の有無	19
(9) 自己の関連業種について独立自営する可能性についての日伯間の比較	19
2. 技術および企業環境	20
(1) 機械施設, 工具等は日本と比較して進歩していると思いますか	20
(2) 生産管理, 業務管理は日本と比較して進歩していると思いますか	20
(3) 職種転換の有無と結果	21
(4) 現就労会社が工程改善, 作業能率向上等に注意を払っている程度	22
(5) 会社の工程, 作業能率改善に参画した例がありますか	23
(6) あなたの職種について日本で修得をしておいた方が良いと思う専門技術は何ですか	23
3. 生活	24
(1) 当地に定住しますか	24
(2) 結婚について	24
(3) 親しい友人	25
(4) 1カ月の生活費	26
(5) 子供の教育	27
(6) 家庭内での使用言葉	28
(7) 移住後ブラジル語習得方法	28
(8) 現在の語学程度	29
(9) 職場で語学に不自由しない程度になるのに要した年月	30
(10) 副収入の有無	30
(11) 就労生活上特に必要とする伯国法令	30
4. 移住に関する感想	31
(1) 移住してよかったと思いますか	31
(2) ブラジル国について予想していたのとどうですか	31
(3) ブラジル人の性格をどう思いますか	32
(4) ブラジルで取りたいと思っている技能資格, 又は学歴は何ですか	33
(5) 移住後伯国の教育を受けたことがありますか	33
(6) 後続技術移住者に対するアドバイス	34
5. 独立自営者についてのアンケート	35
(1) 独立の動機は何ですか	35

(2) 独立自営のための所要資金はどのように調達しましたか	35
(3) 独立のための準備期間はどの位要しましたか	35
(4) 経営が一応の軌道に乗るまでにどの位の期間を要しましたか	36
(5) 取引先はどのように開拓しましたか	36
(6) 経営上困難な問題は何ですか	36
(7) 従業員の採用方法	36
(8) 今後技術移住者を採用する希望はありますか	37
(9) 今後独立自営しようとする技術移住者へのアドバイス	37
IV. 附 表	38
1. 就労企業一覧表(日系)	38
2. " (外国系)	39
3. 自営企業一覧表	40
4. 回答者一覧表	41
V 技術移住者実態調査票	50



# I 調査方法の概要

## 1 調査目的

技術移住の大宗をなすサンパウロ支部管内に移住した技術移住者を対象として、その就労環境、待遇、生活、移動、独立状況、移住に関する感想等を調査し、今後の技術移住業務推進上の基礎資料を得ることを目的とした。

## 2 調査対象と調査方法

### (1) 調査対象

昭和36年度から昭和45年度までの10年間に、事業団扱いにてサンパウロ支部管内へ技術移住した者全員、597名。

但し、統計上技術移住者に分類されている昭和39年度産業開発青年隊員32名は除いた。

597名のうち、他支部管内へ転住している者については、伯国内の所管支部に依頼して調査を行った。

年度別調査対象者  
(家族単身の別は渡航時の区分による)

区分	家族(人数)	単身	計(人数)
36年度	12(47)	27	39(74)
37	1(2)	39	40(41)
38	5(13)	34	39(47)
39	2(7)	29	31(36)
40	10(27)	69	79(96)
41	15(45)	87	102(132)
42	16(46)	67	83(113)
43	9(23)	50	59(73)
44	7(16)	48	55(64)
45	12(34)	58	70(92)
計	89(260)	508	597(768)
	14.9%	85.1%	100%

開発青年隊32を除く

(呼寄技術移住者は除いた)

### (2) 調査対象者の推定分布状況

調査対象者597名の推定分布状況は次のとおり。(調査結果に基づく推定)

	(人数)	(調査票回収済数)
ア. サンパウロ支部管内	(562)	(198)
(ア) 日系企業	230	101
(イ) 外国系企業	272	77
(ウ) 独立自営者	40	20
(エ) 商業等に従事者	20	(ア~ウ)に含める)

	(人数)	(調査票回収済数)
イ. 他支部管内へ転住者	( 32)	( 4)
(ア) リオ・デ・ジャネイロ支部管内	26	1
(イ) レシーフェ支部管内	1	1
(ウ) ベレーン支部管内	3	0
(エ) ボルトアレグレ支部管内	2	2
ウ. 死 亡 者	3	

注 外国系企業の推定人数に端数があるのは、全体の端数をこゝで処理したためである。

### (3) 調査方法

直接、技術移住者に面接、調査員が聞きとり記入する個別面接聴取法を原則としたが、これができない場合が多かった。

既に所在の判明している者については、支部職員あるいは委嘱した調査員2名により直接面接の上調査を行う建前であったが、移住者がある程度まとまっている日系の会社については、時間を節約するため、会社に依頼し会社を通じて調査票を配布回収する方法をとった。(会社を通じた場合、調査票は本人が記入、密封の上、会社経由又は直接事業団サンパウロ支部へ送付)

また桑野会のように組織のある者についても、その組織を通じて調査する方法を併用して調査の徹底を期した。

外国系企業については、勤務時間中は会社の協力が得られないことが多く、会社では調査票を配布するにとどめ、休日又は夜間に自宅に向向いて調査票を回収することとなった。(回収に向向いても未記入の場合があり、その場で聞きとり記入することも多かった)

この他の散在した者については、その所在確認に困難を極め、同船者や友人の話を頼りに、あるいは主だった下宿屋や、就労していそうな会社をたずね歩いて調査を行った。

他支部管内に転住した者については、その所管支部に調査を依頼した。(支部経由回収できたのはボルトアレグレとレシーフェ支部のみであった)

### (4) 調査時期

昭和46年12月。

但し、調査が昭和46年10月から昭和47年1月の延べ4ヶ月(実質3ヶ月)にわたり、この間、給与調整や生活費の上昇もあったと思われるが、この修正作業は実施していない。このため12月は厳密な意味での調査時点ではない。

## Ⅱ 基礎調査結果の概要

### 1 回答者の概況

#### (1) 回答総数

回答者は202名で調査対象総数の33.8%であった。年度により多少のデコボコはあるが、全体の傾向をみる上では差支えない数字と思われる。

年度別調査状況

年度	対象総数	回収	死亡	未回収	所在未確認
昭和36	39	11	0	17	11
37	40	16	0	14	10
38	39	7	0	13	19
39	31	14	0	8	9
40	79	15	1	21	42
41	102	25	0	31	46
42	83	34	0	24	25
43	59	20	2	19	18
44	55	22	0	17	16
45	70	38	0	26	6
計	597	202	3	190	202
全体に占める割合	100%	33.8%	0.5%	31.9%	33.8%

注1. 未回収………集計締切時における未回収数であり、その後回収されたものも多い。こゝに分類したものは所在が判明しているものである。

2. 所在未確認………所在がほとんど判明していても、調査票配布にまで至らなかった者も含む。完全な所在不明を意味するものではない。

年度別職種別回答者 (単位 人)

年度	技師	設計検査	電気技能者	治工具金型	機械仕上	その他	自営	計
36	4	2	0	1	0	0	4	11
37	1	2	1	2	8	1	1	16
38	2	1	0	1	2	0	1	7
39	2	7	0	2	2	0	1	14
40	4	3	0	2	2	0	4	15
41	0	10	1	3	6	1	4	25
42	6	9	2	5	6	3	3	34
43	2	6	1	3	5	2	1	20
44	4	7	0	1	5	3	2	22
45	5	12	6	5	6	3	1	38
計	30	59	11	25	42	13	22	202

注 日本またはブラジルの専門の大学を出ていない者でも、技師的待遇を受けているとして本人が技師と記入したものは技師に分類した。  
逆に、大卒でも本人が技能者と申告したものは技能者に分類した。

(2) 年度別就労先

就労先を日系と外国系にわけた場合、在伯年数が長くなるに従い、外国系へ移行していることが明らかとなった。

全体として日系、外国系の割合は57%対43%であるが、前半の5年に限ってみるとこの割合は33%対67%と逆転している。

今回調査できなかった者は、情報のつかみ難い外国系企業に多いと推測されることから、技術移住者全体をみた場合には、45対55の割合で外国系に多くいるとみられる。

日系の進出企業とコロニア企業をみた場合、コロニア企業の方が若干多いとみられ、次の表はほぼ平均値と思われる。

年 度 別 就 業 先 (単位 人)

区分	日 系			外国系	自 営	計
	コロニア	進 出	小 計			
36	0	0	0	7	4	11
37	3	6	9	6	1	16
38	0	0	0	6	1	7
39	2	2	4	9	1	14
40	1	3	4	7	4	15
41	4	4	8	13	4	25
42	9	5	14	17	3	34
43	9	5	14	5	1	20
44	8	11	19	1	2	22
45	20	10	30	7	1	38
計	56	46	102	78	22	202

(3) 職種別就労先

職種別に就労先をみると、外国系就労率は、技師と治工具金型において若干ながら高くなっている。電気技能者の外国系就労率が低いのは、労働市場が小さいことによるものとみられるが、今後絶対数が増加すれば、この率は変わってゆくと思われる。

日系を進出とコロニア企業に対比させてみると、設計検査部門は進出企業に多く、治工具金型と機械部門はコロニア企業に多い現象がみられるが、これはそれぞれ企業形態と規模による需要の大小によるものであろう。

職 種 別 就 業 先 (単位 人)

区 分	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	そ の 他	計	%
日系コロニア	6	11	4	9	18	8	56	31.1%
日系進出	8	22	4	2	8	2	46	25.6
小 計	14	33	8	11	26	10	102	56.7
外 国 系 全体に占める 外国系の割合	16 53.3%	26 44.1%	3 27.3%	14 56.0%	16 38.1%	3 23.1%	78	43.3
合 計	30	59	11	25	42	13	180	100%

(4) 学歴別内訳

工業高校卒が41%、工業大学(大学の工科)卒が21%を占めているが、この数年この率は高くなっており、単なる職業訓練所のみ、あるいは中卒、普通高校卒後工場で若干の経験を積んで来ると言うケースはすくなくなっている。

学 歴 別 内 訳

(単位 人)

年度	工業大学	工業高校	職業訓練所	専門学校	その他	計
36	2	2	0	1	6	11
37	0	8	5	0	3	16
38	2	3	1	0	1	7
39	1	7	4	1	1	14
40	3	7	1	0	4	15
41	2	14	2	2	5	25
42	9	8	11	0	6	34
43	4	6	2	5	3	20
44	8	11	1	0	2	22
45	11	18	5	0	4	38
計	42	84	32	9	35	202
%	21%	41%	16%	5%	17%	100%

(5) 年令構成

全体の平均年令は30才、年度別にみても昭和36年度組を除き30~33才が多く、渡航時の年令が比較的若かったことを示している。

このことは逆に、経験豊富な中年層の技術、技能者がすくなかったことも意味している。前半5年(昭和36~40年)の平均は34才で、後半5年の平均は29才である。

年 令 構 成

(単位 人)

渡航年次 \ 年令	20~25	26~30	31~35	36~40	41以上	計	平均年令
36	0	1	2	3	5	11	41才
37	0	9	7	0	0	16	31
38	0	1	3	3	0	7	34
39	0	4	9	0	1	14	32
40	0	6	6	2	1	15	33
41	3	9	8	3	2	25	32
42	3	18	10	2	1	34	30
43	7	6	6	0	1	20	24
44	8	10	4	0	0	22	27
45	16	16	4	2	0	38	27
計	37	80	59	15	11	202	30
全体に占める割合	18.3%	39.6%	29.2%	7.4%	5.5%	100%	

(注) 年令は昭和46年12月31日現在において計算した。

## (6) 未既婚の別

昭和42年組までは既婚者が多いが、昭和43年以降は未婚が多く、渡航年次が新しくなるに従いその率は高くなっている。

このことは、渡航後4～5年、生活が落ちつくに従い結婚してゆくことを表していると思われる。  
(結婚に関するアンケート参照)

未・既婚の別 (単位 人)

年度	未 婚	既 婚	計
36	0	11	11
37	4	12	16
38	2	5	7
39	0	14	14
40	4	11	15
41	10	15	25
42	17	17	34
43	15	5	20
44	15	7	22
45	29	9	38
計	96	106	202
%	48%	52%	100%

## 2. 移動状況

### (1) 年度別転社状況

回答者202名全体を通して転社歴ゼロ、即ち移住当初の就労先に勤務中の者が36.1%あり、次いで転社歴1回の者が28.2%となっている。中には移住後1年にして3回も転社している例もあるが、これは例外に属するであろう。

また、昭和36年から45年までの10年間に移住した202名の平均転社回数は1.3回であり、202名の延べ在伯年数を延べ転社回数で割って平均勤続年数を出すと3.4年となる。

在伯年数の短かいものからこの種統計を行うことには問題もあるので、在伯6年以上の者に限ってみると、平均勤続年数は4.1年となる。

在伯6年以上の者の平均転社回数は1.9回で、転社歴ゼロが23.8%、1回が17.5%、2回が20.6%、3回が最も多く25.4%となっている。

従来、技術移住者は腰が軽く、落ち着かないとの批判も多かったが、以上からみる限り決して悪くない状況を示している。

但し、ここで注意しなければならないのは、他の統計と異なりこれをもって全体を代表させるには、無理があることである。即ち、さきに示した202名の所在未確認の者の大多数は、当初就労先を動いたため所在の確認ができない者達であるので、技術移住者全体をみる場合にはこれを勘案しなければならない。しかし調査できなかった者の実態をここで推量することはできないので、これら統計は移動状況を知る一つの目安としてのみ利用願いたい。

年度別転社状況 (単位 人)

年度 \ 転社回数	0	1	2	3	4	5以上	計	1人当り平均転社回数	1人当り平均勤続年数
36	1	2	0	5	0	3	11	2.9回	3.4年
37	8	2	1	4	1	0	16	1.3	6.9
38	1	0	3	2	1	0	7	2.3	3.5
39	3	1	6	2	1	1	14	2.0	3.5
40	2	6	3	3	0	1	15	1.7	3.5
41	4	11	6	2	2	0	25	1.5	3.3
42	8	9	8	3	6	0	34	1.7	2.4
43	7	10	1	2	0	0	20	0.9	3.3
44	15	6	1	0	0	0	22	0.4	5.0
45	24	10	3	1	0	0	38	0.5	2.0
計	73	57	32	24	11	5	202	1.3回	3.4年
回数割合	36.1%	28.2%	15.8%	11.9%	5.5%	2.5%	100%		

注 平均転社回数, 平均勤続年数を出す場合, 5以上の転社回数は全て5回として計算した。

(2) 職種別転社状況

平均転社回数が1.3回であることはさきに述べたが, 独立自営者と治工具, 金型工は1.9回と1.7回と高率を示す一方, 電気技能者は0.8回とかなり低率を示している。

独立自営者を除き, 職種別転社回数は, それぞれの職種の転社の難易を物語っているものとみられる。

転社歴のない者は, 電気5.5%, 機械仕上4.5%, 技師と設計検査が3.7%, 治工具金型が3.6%, その他3.1%となっており, この率で当初就職したところにとどまっていることを意味している。

職種別転社状況 (単位 人)

職種 \ 転社回数	技師	設計検査	電気技能者	治工具金型	機械仕上	その他	自営	計
0	11	22	6	9	19	4	2	73
1	8	17	2	5	10	6	9	57
2	6	8	2	2	9	2	3	32
3	2	7	1	4	3	1	6	24
4	1	5	0	3	1	0	1	11
5以上	2	0	0	2	0	0	1	5
計	30	59	11	25	42	13	22	202
平均転社回数	1.3回	1.3回	0.8回	1.7回	1.0回	1.0回	1.9回	1.3回

注. 独立自営者で転社回数0とあるのは, 当初就職先で共同経営者となったためである。

### (3) 退社理由

202名の総退社回数は262回であるが、このうち180回分について理由の説明があった。次表はその分類である。

退社理由は、予め例示して質問することをせず、本人が自由に申告する形式のため、分類のレベル統一ができず解り難い面もあるが、高賃金を求めての移動が圧倒的多数を占めることが判明した。即ち、「他社就職のため」及び「外国系企業で働くため」の中には、相当数が高賃金を求めてのものとみられるからで、これを含めるとこの率は40%を超えるものと推測される。

職務不適合又は技術不足による退社が10%あり、このうち40%は第1回目退職であるが、現行の事前配置方式では、ある程度避けられないことで、再あっせん等援護を必要とする現象である。

「その他」の中には、「旅行のため」とする者が多く、再就職が容易なことにもよるであろうが、一時的なレジャーのために簡単に退職していることが注目される。

### 退社理由

(回答あった180例の退社理由)

(単位 件数)

退社理由 年度	1 給 与	2 の 他 社 就 職 た め	3 め 勉 強 の た め	4 上 人 の 事 不 満 理	5 た 業 外 で め 働 系 く 企 業	6 事 倒 産 又 は 事 業 不 振	7 技 術 不 足	8 職 務 不 合 格	9 な 将 来 性 が	10 て 解 雇 さ れ	11 め 独 立 の た め	11 そ の 他	計
36	2	3	0	0	0	5	2	0	4	4	1	21	
37	3	1	3	0	0	0	0	0	1	2	3	13	
38	1	0	0	1	0	2	0	0	1	2	2	9	
39	5	2	0	0	0	0	0	0	2	1	2	12	
40	6	1	1	0	0	2	1	0	0	2	4	17	
41	11	2	1	2	2	0	1	0	3	2	3	27	
42	21	4	0	5	0	2	8	1	3	2	2	48	
43	5	0	0	2	3	0	2	1	0	1	4	18	
44	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	4	
45	4	0	0	2	0	0	3	0	0	0	2	11	
計	58	13	6	13	5	11	18	3	14	16	23	180	
%	32.2%	7.2%	3.3%	7.2%	2.8%	6.1%	10.0%	1.7%	7.8%	8.9%	12.8%	100%	

注. 退社理由の分類は次のように行った。

1. 給与……単に給与と記したもの又は現給に不満と記したもの。
2. 他社就職のため……この中には、より高給を求めての者、現在の会社で不満で他社へ就職するもの等種々の理由が含まれると思われる。こゝには、他社からの引き抜きによるものも含まれる。
3. 勉強のため……腕をみがくため、視野を広めるため、勉強のためと記した者をまとめた。
4. 人事管理上の不満……職場の環境、人間関係に不満なもの。
5. 外国系企業で働くため……外国系企業で働きたいため、ボ語を覚えるため、外国系企業が給与が高いから等と記したものをまとめた。
6. 倒産又は事業不振……就労している会社が倒産したり事業不振で退職のやむなきに至った者。
7. 職務の不適合又は技術不足……職務が合わなかったり、就職してみたものの技術が不十分で退職に至ったもの。
8. 将来性がないから……会社の将来性がないから、就労会社で将来伸びる見込みがないからとしたもの。



9. 解雇されて……解雇による退職。
10. 独立自営のため……独立のための退職。
11. その他……一身上の都合、一時帰国のため、転任のため、旅行のため、等と記したものをまとめた。

### 3 給 与

#### (1) 年度別、職種別平均給与

給与についての回答は132人(自営を除く180人中の73.3%)にとゞまり、その平均はCR\$1,446であった。

一般に在伯年数が長いほど高賃金になる傾向にあるとは言えるが、日本の年功序列型賃金と異なるため、必ずしも明確なカーブを画いておらず(サンプルがすくないためもあるかも知れないが)あとから移住しても、腕さえよければ高賃金を得られることを示している。

職種別には、技師が最高でCR\$2,099、設計検査がこれに次ぎCR\$1,523、治工具金型、機械仕上、電気技能者、その他の順となっている。

技師の給与は伯国の学卒者よりもかなり低めであるが、技術さえあれば語に習達するに従い上昇するものとみられる。

年 度 別 職 種 別 平 均 給 与

(単位 CR\$)

区 分	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	そ の 他	年 度 平 均
36	2,054	1,488	-	1,392	-	-	1,747
37	2,400	1,295	1,000	1,234	1,128	-	1,286
38	2,675	-	-	-	1,416	-	2,045
39	1,750	2,578	-	1,800	-	-	2,348
40	2,792	1,731	-	1,000	-	-	2,176
41	-	1,835	-	1,329	1,548	-	1,691
42	2,312	1,662	1,725	1,289	1,325	1,060	1,596
43	1,375	1,208	1,250	1,408	1,174	700	1,218
44	1,420	1,267	-	1,300	1,150	1,000	1,223
45	1,812	932	984	776	974	816	1,021
職 種 別 平 均	2,099	1,523	1,160	1,203	1,190	933	総平均 1,446

#### (2) 職種別、就労先別平均給与

給与を就労先別にわけると、外国系がCR\$1,888で最も高く、日系進出CR\$1,186、日系コロニアCR\$1,073の順になっている。

日系のコロニア企業と進出企業との間には、その差もわずかで職種別にみた場合判然としない面もあるが、日系と外国系を対比すると歴然たるものがある。(全体でCR\$700~800の差)

「外国系が高いのは、技術のよい者が外国系へ行くからで、同程度の技術であれば日系外国系の給与差はあまりない」とする意見もある。この意見が正しいとしても、優秀な技術者が、言葉の壁を乗り越えてまで外国系へ移行してゆく事実は見逃せない。

また、日系が低いのは、日系企業特にコロニア企業の基盤が弱く、中小企業が多いためとの意見もあるが、この報告書では企業規模別の分析を行っていないので判然としない。

## 職 種 別 ・ 就 業 先 別 平 均 給 与

(単位 CR\$)

区 分	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	そ の 他	計
日系コロニア	1,633	1,092	840	1,083	1,076	908	1,073
日系進出	1,515	1,112	1,298	803	1,188	1,350	1,186
外国系	2,521	2,020	1,525	1,373	1,380	1,090	1,888
計	2,099	1,523	1,160	1,203	1,190	933	1,446

## (3) 給与額別職種別分類

今回の統計では、共同経営者を含む独立者の給与は対象外としたので、例えば、会社の重役あるいは部長として相当高給を得ている者はここに表われていない。このため最高の給与取得者は昭和43年度渡航、外国系企業に勤める生産管理技術者(29才)のCR\$4,100にとどまった。最低はCR\$500が3名あり、昭和45年度渡航、日系コロニア企業に勤める設計製図工(23才)、同じく電気技能者(23才)及び昭和41年度渡航、日系進出企業勤務、機械設計製図工(39才)である。

設計は技術さえよければ技師に次ぐ高賃金を得ているが、技能が低くボ語に習熟しない者は低給与に甘んじなければならないのが現実である。

日本の如く年功による昇給がないので、低技能者で、勉強する意欲のない者は移住すべきではないことを示唆している。

## 給 与 額 別 ・ 職 種 別 分 類

(単位 人)

給 与 額	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	そ の 他	計	
							人 数	%
500 <sup>CR\$</sup> 以下	0	2	1	0	0	0	3	2.3
501~750	0	2	2	1	4	2	11	8.3
751~1,000	1	9	0	0	5	5	20	15.2
1,001~1,250	3	7	4	5	6	3	28	21.2
1,251~1,500	3	9	0	2	7	0	21	15.9
1,501~1,750	2	2	1	7	2	0	14	10.6
1,751~2,000	3	4	2	1	2	0	12	9.1
2,001~2,500	6	5	0	1	0	0	12	9.1
2,501~3,000	2	5	0	0	0	0	7	5.3
3,001以上	3	1	0	0	0	0	4	3.0
計	23	46	10	17	26	10	132	100%

## 4. 資 産 状 況

資産はあまり知られたくないためか、質問に答えなかった者が多く、回答は90名にとどまった。

回答のない者では資産のない者の方が多いかとも思われるので、回答者が全体を代表するとは言いがたい面もあるが、逆に回答者の中でも不動産(アパート)をもちながら金額をゼロとしているなど、100%申告していない者も見受けられるので、総体的にはほぼ平均値に近いとみてよいであろう。

渡航後1~2年の者の資産のうちには携行した資金も含まれるが、全体に占める割合は低いと思われる。

90名の資産総額の平均はCR\$25,517(邦貨約163万円);これを前半5年間の平均にすると

CR\$ 41,315となり、全体としては在伯年数が古いほど蓄えが多くなっていることを示している。

資産は土地、家、アパート等不動産の形で保有している者が多く全体の63%を占めている。

職種別では、独立自営者の資産が多いことは当然であるが、その次に治工具金型が来ているのは、サンプルがすくない上、1人でCR\$ 180,000の高額所有者が含まれるため、これを勘案すると、1位独立自営者、2位技師、3位治工具金型、4位設計の順となろう。

既婚、未婚による区別はつけ難いが、未婚者でも、何等かの不動産を所有している者が9名いる。

### 年 度 別 資 産 状 況

(単位 CR\$)

区 分	現 預 金	不 動 産	公 社 債	そ の 他	計	平 均
36年度 11人	67,550	379,000	144,625	49,000	640,175	58,198
37 " 9"	94,000	236,000	10,000	10,000	350,000	38,889
38 " 4"	26,000	166,000	500	-	192,500	48,125
39 " 4"	24,000	55,000	38,000	3,000	120,000	30,000
40 " 8"	40,180	126,500	-	18,000	184,680	23,085
41 " 13"	77,000	314,000	29,000	18,000	438,000	33,692
42 " 13"	30,500	90,000	11,000	20,000	151,500	11,654
43 " 3"	13,000	15,000	-	-	28,000	9,333
44 " 9"	37,000	40,000	6,500	6,000	89,500	9,944
45 " 16"	51,200	20,000	21,000	10,000	102,200	6,388
計 90人	460,430	1,441,500	260,625	134,000	2,296,555	
1人平均	5,116	16,016	2,896	1,489		25,517

(調査時1 CR\$約64円)

### 職 種 別 資 産 状 況

区 分	技 師	設計検査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	そ の 他	自 営	計
人 数	17	25	8	6	14	7	13	90人
金 額 CR\$	620,925	514,200	71,000	234,750	203,180	37,500	614,500	2,296,555
平 均 CR\$	36,525	20,568	8,875	39,125	14,513	5,357	52,731	25,517

## 5. 住 宅 事 情

全般にアパート住いがすくなく(11%)、独立家屋(数戸つぎの長屋形式のものを含む)住いが多い(58%)のは、工場の所在する郊外に住むため、その地域に独立家屋形式のものが多くことによるものとみられる。

新しい移住者でも家族持ちはアパート乃至借家に住み、未婚者はいつまでも下宿住いをする傾向にある。(下宿住い47件は1件を除き全部未婚者である)

家(アパート又は独立家屋)を既に購入済み又は購入中(分割払い中)の者は全体の16%であるが、これを昭和40年度以前渡伯の者(6年以上在伯)に限れば32%となる。

これを職種別にみると技師のうち27%が購入済み又は購入中で、次いで電気技能者の20%、機械

仕上18%, 治工具金型17%, 設計検査, 独立自営者がそれぞれ11%の順となっている。サンプルがすくないので, これが一つの傾向を表しているかどうかは不明である。

未婚者でも, 既に家を所有している者が1名, 購入中のものが2名ある。

### 年度別住宅事情

(回答/188人)

区分	アパ-ト			独立家屋			下宿	社宅等	計
	自己所有	分割払 購入中	賃借	自己所有	分割払 購入中	賃借			
36年度			1	1	2	4			8
37			2	1	3	7		1	14
38		1	1	1	1	2	1		7
39				2	2	8			12
40			1	2	1	6	2		12
41	1		2	3	3	12	2		23
42			3	1	2	16	10	1	33
43			2		1	5	10	1	19
44			3	1		11	2	5	22
45			3		1	10	20	4	38
計	1	1	18	12	16	81	47	12	188

注. 1. アパ-トとは, シャワーまたはバス, トイレ, 台所がついたものを言う。最小のものは居間兼寝室の1間のももあるが, 普通アパ-トという場合は1居間1寝室以上である。

2. こゝで言う下宿は, 1間を借りる素人下宿も, 所謂ペンソ-ンと言う合部屋のものも区別がついてない。

### 職種別住宅事情

(回答188人)

区分		技師	設計 検査	電気技 能者	治工具 金型	機 械 仕 上	その他	自 営	計
ア パ ー ト	自己所有							1	1
	分割払 購入中	1							1
独 立 家 屋	自己所有	4	3		3	2			12
	分割払 購入中	3	3	2	1	5	1	1	16
下 宿	賃借	7	26	1	10	16	7	14	81
	賃借	6	15	3	9	11	3		47
社 宅 寮	賃借	3	3	2		4			12
	賃借								
計		30	54	10	23	39	13	19	188

## 6. 帰化状況

回答者202名中伯国籍に帰化した者は1名である。昭和39年渡伯者であり, 渡伯後6年目に帰化している。

## 7. 独立自営状況

何等かの形で独立自営している者は、技術移住者全体で約40～50名にのぼるとみられるが、今回の調査では、そのうち22人の独立状況が判明した。以下はその概要である。

### (1) 業種

電気修理店	6人
下請機械加工	3人
鋳造部品製造	1人
鋳造用木型製造	1人
ラジオ製造	1人
計装器据付工事	1人
設計事務所	1人
家具木工	1人
自動車板金塗装	1人
コンデンサー製造	1人
弱電気用部品製造	1人
化学繊維製造	1人
おり紙製造	1人
中華料理店	1人
船舶用食品供給	1人
計	22人

### (2) 資本金および全額自己資金、共同出資の別(回答17人)

CR\$ 1,000.00(自)	2人
CR\$ 2,000.00(＃)	1人
CR\$ 3,000.00(＃)	1人
CR\$ 3,500.00(＃)	1人
CR\$ 5,000.00(＃)	2人
CR\$ 5,000.00(共)	1人
CR\$ 6,000.00(自)	1人
CR\$ 6,000.00(共)	1人
CR\$ 7,000.00(自)	1人
CR\$ 10,000.00(＃)	1人
CR\$ 20,000.00(＃)	1人
CR\$ 30,000.00(共)	1人
CR\$ 38,000.00(＃)	1人
CR\$ 60,000.00(＃)	1人
CR\$ 1,000,000.00(＃)	1人
計	17人

(3) 従業員数 (回答 17人)

なし	4人
3人	5人
5人	1人
6人	1人
7人	1人
8人	1人
11人	1人
18人	1人
20人	1人
160人	1人
計	17人

(4) 着伯後独立自営までに要した期間 (回答 19人)

1年未満	3人
1年～1年11ヵ月	5人
2年～2年 "	1人
3年～3年 "	5人
4年～4年 "	0人
5年～5年 "	1人
6年～6年 "	0人
7年～7年 "	2人
8年以上	2人
計	19人

(5) 月平均売上高 (回答 14人)

CR\$ 1,000.00	2人
CR\$ 1,200.00	1人
CR\$ 3,300.00	1人
CR\$ 4,000.00	1人
CR\$ 7,400.00	1人
CR\$ 11,000.00	1人
CR\$ 11,000.00	1人
CR\$ 15,000.00	1人
CR\$ 30,000.00	2人
CR\$ 32,000.00	1人
CR\$ 40,000.00	1人
CR\$ 1,000,000.00	1人
計	14人

(6) 独立自営地域 (回答 22人)

サンパウロ市内 (サンパウロ州)	18人
サントス市 (サンパウロ州)	1人
カンボグランデ市 (マツグロッソ州)	1人
ポルトアレグレ市 (リオグランデドスール州)	1人
ヴィトリア市 (エスピリトサントス州)	1人
計	22人

### Ⅲ アンケート調査結果の概要

#### 1 就労状況と意識

##### (1) 現在の会社を選んだ理由

ア. 回答

(回答129件の内訳)

理 由	第1回就労時	第2回以降	計
事業団あっせんによる	16	5	21
自分の職種に合っているから	4	11	15
渡伯の手段	13	0	13
給与がよいから	1	11	12
知人等の紹介による	2	6	8
他になかったため	2	3	5
将来性があるから	0	4	4
職種の転換	0	3	3
外国系会社	0	3	3
その他	19	26	45
計	57	72	129

#### イ. 分析

129の回答があったうち57件については、移住時(第1回就職時)のものであった。予め回答例を用意しなかったため、まちまちの回答となり、必ずしも期待したデータが得られなかった。

例えば、調査対象は100%事業団あっせんによるものであるから「事業団あっせんによる」では理由として意味がない。また、ほとんどの者は第1回就職先に一生勤める積りはないであろうからほとんどが「渡伯の手段」と言えないこともない。問題は、第2回以降の理由にあるが、「自分の職種に合っているから」としたものと、「給与」によるものが最も多かった。「その他」に分類した中にも「生活向上のため」等、高給与を求めてとみられるものが多いので、実際には高給与を理由として会社を選ぶ者が最多数を占めると考えられる。これは、前述のⅡ.2.(3) 退社理由の項で40%以上が高給与を求めてのものであると推測されるところと思われられる。

一方、目先の給与には係わりなく、会社の将来性に期待して、外国系企業で勉強するため、独立準備のため等、将来を考えての理由も多い。

また「他に無かったためやむなく」など、解雇、倒産等により退職が先行し、選択の余地なく就職している者も若干いる。

「自分の職種に合っているから」とした者については、単に職種さえ合えばどこでもよかったのか、あるいは職種が合い且つ給与も良かったため選んだのか等詳しい理由は不明である。(後述(7) 転社希望の項では「職務が合わない」とする者が16%を占めており、これら職務の合わなかった者が、単に自分に合う職務を求めての就職とも考えられる。)

##### (2) 現在の職場に満足していますか

ア. 回答

#### (7) 人間関係

(回答165人)

区 分	日系コロニア企業		日系進出企業		外国系企業		計	%
	人数	%	人数	%	人数	%		
満足している	12人	23%	10人	23%	22人	32%	44人	27%
普通	31	60	26	59	40	58	97	58
不満足	9	17	8	18	7	10	24	15
計	52	100	44	100	69	100	165	100

## (イ) 仕事

(回答168人)

区 分	日系コロニア企業		日系進出企業		外国系企業		計	%
	人数	%	人数	%	人数	%		
満足している	12人	23%	13人	29%	25人	35%	50人	30%
普通	29	57	26	58	37	51	92	55
不満足	10	20	6	13	10	14	26	15
計	51	100	45	100	72	100	168	100

## (ウ) 厚生施設

(回答168人)

区 分	日系コロニア企業		日系進出企業		外国系企業		計	%
	人数	%	人数	%	人数	%		
満足している	1人	2%	10人	23%	21人	28%	32人	19%
普通	22	43	11	25	26	36	59	35
不満足	28	55	23	52	26	36	77	46
計	51	100	44	100	73	100	168	100

## 4. 分析

## (イ) 人間関係

全体として、約30%の者が、人間関係に満足しているが、これを日系、外国系に対比させると、言葉の不自由さにも拘らず、わずかながら日系よりも外国系の方が、より満足していることを示している。これは、外国系企業には、日系人社会特有の人間関係の煩わしさが少ないことによるものと解される。

(日系企業の退社理由に、人間関係をあげている者が数名おり、また、後述(7)の転社希望の内訳でも人間関係によるものが日系進出に多い)

## (イ) 仕事

仕事の面については、全体を通じ日系進出と外国系企業は、ほぼ同様とみられるが、日系コロニア企業において、満足の度合が若干劣ることが表れている。

## (ウ) 厚生施設

厚生施設を整える習慣は、日本に比しすくないのが一般であるが、意外に外国系に満足の度合が高く現れている。これは外国系企業就労者は在伯年数が長く、伯国の習慣に慣れてあまり期待をもたないため、不満もまた少ないことによると推測される一面もある。

日系コロニア企業においては、企業規模の小さいものが多く、他に比し設備も整っていない傾向にあるが、技術移住者の不満は、日系コロニア企業において特に強く現われている。



(3) 給与は他の従業員に比較し妥当に評価されていると思いますか

ア. 回答

(回答166人)

区 分	日系コア企業		日系進出企業		外国系企業		計	%
思 っ	12人	24%	10人	22%	19人	27%	41人	25%
普 通	25	50	22	49	37	52	84	50
思わ ない	13	26	13	29	15	21	41	25
計	50	100	45	100	71	100	166	100

イ. 分析

給与は、他人からは高給にみえても、本人には、仲々満足に至ることがすくないものであるが、約25%の者が他の従業員に比し妥当に評価されていると認めている。日系、外国系の間で比較した場合、大差は認められないが、強いて順位をつければ、外国系、日系コア企業、日系進出企業の順で満足しており、これは日本の管理を離れるに従い満足の度合が高くなっていると解してよいであろう。

一方、妥当に評価されていないと答えたものが20~30%あり、これらは機会さえあれば、転社につながる可能性をもつものとみられる。(7)転社希望の有無参照)

(4) 給与は他社に比較し妥当だと思いますか

ア. 回答

(回答167人)

区 分	日系コア企業		日系進出企業		外国系企業		計	%
思 っ	9人	18%	4人	9%	15人	21%	28人	17%
普 通	16	32	5	11	37	51	58	35
思わ ない	18	36	34	76	17	24	69	41
不 明	7	14	2	4	3	4	12	7
計	50	100	45	100	72	100	167	100

イ. 分析

前掲(3)の同社内比較に対し、本問は他社との比較である。

この質問により、同社内では普通乃至は妥当に評価されていると思った者でも、他社と比較すると、自分の勤める企業が低給与と感じている者が多いことが判った。

特に進出企業においては、この傾向が強く、76%の者は自社が低給与であると感じている。

(5) 現在の仕事はあなたの技能に適していると思いますか

ア. 回答

(回答165人)

区 分	日系コア企業		日系進出企業		外国系企業		計	%
思 っ	25人	51%	25人	54%	30人	43%	80人	48%
普 通	15	31	16	35	30	43	61	37
思わ ない	9	18	5	11	10	14	24	15
計	49	100	46	100	70	100	165	100

イ. 分析

約半数の者は、自分の技能に適した職務についていると考えているが、外国系の場合言葉の障害

があつてか若干%が低くなつてゐる。

適していないと思つてゐる者は11~18%にわたつてゐるが、前掲(2)の仕事に満足していない者とは一致しており、仕事に対する不満は本人の技能に合った配置がなされていないことによることもあるとみられる。

(6) 現在の会社は完全な能力主義と思ひますか

ア. 回 答

(回答166人)

区 分	日系コロニア企業		日系進出企業		外国系企業		計	%
思 考	6人	12%	3人	7%	20人	28%	29人	18%
普 通	21	44	18	39	28	39	67	40
思 考 ない	21	44	25	54	24	33	70	42
計	48	100	46	100	72	100	166	100

イ. 分 析

就労会社が完全な能力主義と思ひ者は、日系進出、日系コロニア、外国系の順で高くなり、外国系企業では普通を合わせると67%の者が、能力主義であると思つてゐる。

これとは逆に日系進出企業においては、半数以上の者が能力主義ではないとしている。

(7) 転社希望の有無

ア. 回 答

(ア) 転職希望の有無

(回答163人)

区 分	日系コロニア企業		日系進出企業		外国系企業		計	%
有	25人	51%	34人	74%	34人	50%	93人	57%
無	24	49	12	26	34	50	70	43
計	49	100	46	100	68	100	163	100

(イ) 転職希望の内訳

(回答110人)

区 分	日系コロニア企業		日系進出企業		外国系企業		計	%
人 間 関 係	2人	6%	6人	16%	3人	8%	11人	10%
給 与	15	44	19	50	20	53	54	50
職務が合わない	8	23	5	13	5	13	18	16
会社に将来性がない	3	9	3	8	3	8	9	8
そ の 他	6	18	5	13	7	18	18	16
計	34	100	38	100	38	100	110	100

イ. 分 析

回答者163名中、57%の者が転社を希望しており、最も多いのが日系進出の74%で、日系コロニアと外国系はそれぞれ50%である。

これは必ずしも切実な希望ではなく、適当なチャンスさえあればという、軽い意味での回答とみられる。

転社希望の理由については、回答したものが110人で、前述の転社希望の有無に関し、回答しな

かった者も含まれるが、転社をする場合の理由と解して考えてみたい。

理由の最も多いのが給与で、回答者の50%を占めるが、これはⅡの(3)退社理由の項でみたところ、ほぼ一致する。

次に高率を示すのが、職務の不適合であるが、これは(5)で自分の技能に適した職務にいない者と思わない者と共通して、日系コローア企業において高率である。

人間関係を理由にする者では、わずかながら日系進出が高率となっている。

(8) 独立希望の有無

ア. 回答

(回答142人)

区 分	日系コローア企業		日系進出企業		外国系企業		計	%
有	28人	60%	24人	62%	28人	50%	80人	56%
無	19	40	15	38	28	50	62	44
計	47	100	39	100	56	100	142	100

イ. 分析

独立の希望は142名の回答中、56%(80名)を占めている。

これは回答をしなかった者までを含めても、(180名中)44%となる。

いずれにしても、技術移住者の約半数、乃至それ以上の者が機会さえあれば、独立を望んでいることがわかる。

(9) 自己の関連業種について独立自営する可能性についての日伯間の比較

64名の回答のうち質問を若干取り違えて回答した者もあったが、参考になると考えられる主な意見をまとめると次のとおりとなる。

業種別には特徴がみられないので、ここでは業種別分類は行なわなかった。

(ア) 伯国の方が独立のチャンスが多い、可能性大、容易である、とする意見。

理由. ブラジルの方が

- 未開発だから
- 競争がすくないから
- 技術が低いから
- 人件費が安いから
- 下請企業がすくないから

(イ) 伯国の方が困難又は不可能とする意見。

理由. ブラジルの方が

- 言葉の障害があるから
- 機械類が割高であるから
- 市場が狭いから
- 法律上の手続が面倒であるから
- インフレがあるから

(ウ) 日伯間には大差ないとする意見。

理由. 資本と技術があればどこでも同じ

一般技術移住者は、独立自営者の如く体験の裏付がなく、具体性に欠けるきらいがあったが、(ア)の如く独立の可能性大とする見方が最も多かった。(イ)の伯国の方が困難とする意見も、「言葉の障害」から、こゝにあげなかった意見まで、不勉強の感が強く、必ずしも説得力のあるものとは言い難い。

## 2. 技術および企業環境

(1) 機械施設・工具等は日本と比較して進歩していると思いますか。

ア. 回答

(回答165人)

回答グループ 項目	技師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	その他	自 営	計	%
進歩している	1	1	0	1	3	1	1	8	4.8
同程度	5	20	2	5	12	3	2	49	29.7
遅れている	18	33	7	15	25	4	6	108	65.5
計	24	54	9	21	40	8	9	165	100

### 1. 分析

進歩している乃至は同程度と答えたものが、合計34.5%であった。

これは、たまたま前回の結果に近い値を示している。そのうち進歩していると答えたものは、2例(自営者、技師)を除き、何れも外国系の、しかも米独両国の進出企業に就労している。

又、技師の就労先は、内国企業であるが、特殊産業(航空写真による地図の製作)であるため、独占的である事と、国家的要請もあってか、諸般の設備が諸先進国より続々と輸入、整備されているという特殊事情にある。

これに対し、同程度と答えた者の就労先は外国系19社(25名)、日系14社(24名)と略々同数に近かった。

なお、総数202のうち記入が見られなかったものは、37でこれは18.3%に相当する。

(2) 生産管理・業務管理は日本と比較して進歩していると思いますか。

ア. 回答

(回答156人)

回答グループ 項目	技師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	その他	自 営	計	%
進歩している	1	0	0	1	0	0	1	3	1.9
同程度	3	16	2	4	14	2	1	42	27.0
遅れている	18	36	7	14	22	8	6	111	71.1
計	22	52	9	19	36	10	8	156	100

### 1. 分析

進歩している乃至は同程度と答えたものの合計が28.9%と30%弱を示したが、これは期せずして前回の数値と一致した。

進歩していると答えたものは、何れも特殊例(自営、航空写真)であるが、同程度と答えた者達の就労先が外国系16社(22名)、日系16社(20名)と略々同数に近く、前掲と同傾向を示している。

なお、回答比率は77.3%で、無記入46が見られた。

(3) 職種転換の有無と結果

ア. 職種転換の有無

(イ) 回答

(回答151人)

項目	回答グループ	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	その他	自 営	計	%
		有	良かった	4	15	0	6	6	3	1
	悪かった	0	1	0	0	0	0	0	1	2.0
	判らない	2	4	1	0	5	1	1	14	28.0
小 計		6	20	1	6	11	4	2	50	33.1
無 い		19	23	8	13	26	5	7	101	66.9
計		25	43	9	19	37	9	9	151	100

(イ) 分析

ブラジルにおける職種の転換は、一見極めて簡単に行われている反面、単能化による職種の細分化も、かなり厳密に実行されるという両面性を持ち、労働手帳に記載されていない職種での応募は、一顧だにされないという事態も屢々発生している。

後者の例は特に進出外国系大企業に見られることが多く、そこでは本国のシステムを持ち込んだ管理体系が厳然と確立されている。

然し、特に不足している職種の充足に際しては、この規定もかなりゆるやかになり、自信のある者は現職の如何を問わず、応募せしめていることも事実である。

回答者中、職種転換の前歴のあるものは、50名(33.1%)であるが、これは前回比率の約2倍に当る。そのうち70%に相当する35名が、好結果を得たと回答している。

転換後の職種としては設計製図関係、治工具関係及び機械仕上関係等が主たるものであるが、これらの何れもが現在、当国においてなお不足と見なされる職種であり、且つ日本人技術者の大部分が得意とするものであることから、転換者は将来性及び給与の両面から満足した状態にあるものと思われる。

判らないと記入した14名(28%)は、未だその転換結果を判断するに、充分な時間の経過が見られないと見做される。

50名の内訳は外国系28名、日系22名であるが、良いと答えた35名の内訳は、外国系19名、日系16名である。唯一のマイナス例は、日系企業であった。

イ. 職種転換の内容

(イ) 回答

(回答50人)

項目	回答グループ	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	その他	自 営	計	%
		設 計 製 図 へ の 転 換	1	9	0	0	0	0	0	10
同 一 部 門 内 職 種 へ の 転 換	3	7	0	6	8	1	0	25	50	
工 業 関 係 他 部 門 へ の 転 換	2	4	1	0	3	2	0	12	24	
工 業 関 係 外 他 部 門 へ の 転 換	0	0	0	0	0	1	2	3	6	
計		6	20	1	6	11	4	2	50	100

(4) 分析

既述した如く当国に於ては、人材養成の遅れから、或る部門に於ては、著しい技術者の不足を示している。

当然の結果として、その充足のためには、比較的高給が準備されているが、設計、製図、治工具、金型、機械仕上工（中ぐり盤、歯切盤工等特別なもの）等がこれに該当する。

表の結果もこの傾向と完全に一致しており、よりよき職種への転換が実現されている。

先に職種転換の両面性について述べたが、日本人技術者は、ヨーロッパ系移民と共に、その器用性を発揮して旋盤工 → 金型・治工具工、機械工 → 中ぐり盤工、製図工 → 設計製図工等の職種転換を、比較的容易に実現している。

ウ. 職種転換の理由は何ですか

(7) 回答

(回答50人)

回答グループ 項目	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	そ の 他	自 営	計	%
社 会 に よ る	1	5	0	2	3	2	0	13	26.0
給 与 に 不 満	0	10	0	2	2	0	0	14	28.0
本 来 の 職 種 に 戻 っ た	0	2	0	0	0	0	0	2	4.0
将 来 性 を 考 慮 し て	5	3	1	2	6	2	2	21	42.0
計	6	20	1	6	11	4	2	50	100

(4) 分析

本人の発意に基づく職種転換の動機は、現時点においては給与面即ち、好条件にある職種への乗り換えと、将来現職種について安定性が保証され得ないという判断に基づくものゝ2つが中心（70%）で、これらは相互に関連性を保っているといえよう。

第3位として、社会による職種転換という、前回見られなかった新しい項目が増えた。

ブラジルに於いても雇用側の判断により必要と感じた場合は、能力的に不可能な場合は別とし、職種の転換（配置換えを含む）を従業員了解の下に行うことが認められているが、この場合下辺の保証（現給保証）は、不可欠である反面、上辺の保証（ベース・アップ、格付けアップ）は、行なわなくても良いと規定されている。

そこで13件につき、就労企業を検討すると日系10社、外国系3社という数字である。

又、これら13件の社会転職者が1名を除いては、何れも転換に満足したと答えている事実は、日系、外国系を問わず企業側と被雇用者との間に十分な話合が持たれ、転換のメリットを両者共々享有しているものと解釈される。

(4) 就労企業が工程管理に注意を払っている程度

ア. 回答

(回答156人)

回答グループ 項目	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	そ の 他	自 営	計	%
上	14	15	3	5	13	2	3	55	35.2
中	7	23	3	14	18	4	1	70	44.9
下	3	11	2	2	8	2	3	31	19.9
計	24	49	8	21	39	8	7	156	100

1. 分析

普通、乃至特に注意を払っているという二項を合計すると80%となり、これは前回の数字を大きく上まわった。

工程管理についての解釈の仕方にもよるであろうが、兎角後進性を云々されて来たブラジルの企業(日系、ブラジル系を問わず)でも、工業化促進に伴い、経営の近代化、合理化が進められつつあることを示すものと思われる。

(5) 会社の工程・作業能率改善に参画しましたか。

ア. 回答

(回答54人)

回答グループ 項目	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 上 仕	その他	自 営	計	%
参画した	8	13	2	2	5	0	3	33	61.1
参画しない	1	7	4	2	4	2	1	21	38.9
計	9	20	6	4	9	2	4	54	100

1. 分析

回答数は54名と、総回収数に対し1/4強26.7%に留まった。又、54名中参加したと記入したものの33名で61%、参加しないとしたのは21名39%である。

その内容は多種多様であるが、大別すると技師クラスは工場長乃至は同等クラスの責任者として生産計画、新製品開発、設備新設等大局の見地からの相談等プレーン・トラスト的な参加、設計、検査では、これにより一段低い次元で機械類改善の直接担当者として乃至は生産ラインに於けるチェック・マンとして気付いた箇所の改善を提案するという形からの参加と見られる。

治工具、金型は、それらの製作に工夫をこらし、精度の高いもの、しかも作業のし易いものを如何に短期間に作るかという面で、そして機械加工等は、作業工程数の短縮による能率の上昇等直接生産実績の向上に参与している。

(6) あなたの職種について日本で修得をしておいた方が良いと思う専門技術は何ですか。

ア. 回答

(回答111人)

回答グループ 項目	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 上 仕	その他	自 営	計	%
意見 本来の専門 部門に関して	13	20	2	9	13	3	3	63	68.5
生産管理	1	6	0	0	1	1	0	9	9.8
語学	1	3	0	0	1	2	0	7	7.6
その他	1	4	0	3	2	1	2	13	14.1
小 計	16	33	2	12	17	7	5	92	82.9
意見なし	4	5	4	2	2	1	1	19	17.1

1. 分析

意見記入者総数は(特になしという意見を含む)全体の約55%(111名)であった。

意見の記述は多岐多様にわたったが、内容を検討した結果、表に示したとおりの4項目に大別した。

表からも明らかとなり、本来の専門技術の習得をアドバイスするものが多く、68.5%（意見記入者の83.0%）を示している。

これはブラジルを後進国として甘くみて来てはいけないと云うことであろう。

### 3. 生 活

#### (1) 当地に定住しますか

ア. 回 答

(回答175人)

回答グループ 項目	技 師	設 計 検 査	電気技 能 者	治工具 金 型	機 械 仕 上	その他	自 営	計	%
定 住	20	42	10	16	29	8	14	139	79.4
転 住	2	9	0	2	2	3	0	18	10.3
帰 国	1	0	0	2	4	0	0	7	4.0
不明・未定	1	3	0	1	4	1	1	11	6.3
計	24	54	10	21	39	12	15	175	100
未 回 答	6	5	1	4	3	1	7	27	13.3

#### イ. 分 析

回答者175名中「定住」と考えている者が79.4%であり、年代別にみると、36年から41年組（着伯して5年～10年以上）までは、その率も高い。

「不明、考慮中及び未定」と答えた者については38、39、41、42、43各年組各1名あり、44年組で2名、45年組で4名になっている。

「帰国」を考えている者は、回答の4%あり、機械仕上に例をとれば、43年から45年組であり、着伯4年未満組に多い。

#### (2) 結婚について

ア. 既婚者の配偶者

イ) 回 答

(回答96人)

回答グループ 項目	技 師	設 計 検 査	電気技 能 者	治工具 金 型	機 械 仕 上	その他	自 営	計	%
一 世									
日本で結婚	11	10	3	1	4	5	9	43	44.8
移住花嫁	2	2	1	0	0	0	0	5	5.2
当地で結婚	2	6	0	4	6	0	1	19	19.7
二 世	2	7	0	4	4	0	3	20	20.9
日 系 以 外	2	2	0	1	4	0	0	9	9.4
計	19	27	4	10	18	5	13	96	100
回 答 な し	2	2	0	0	1	1	4	10	9.4

#### イ) 分 析

回答者96名中、日本で結婚してきた者43名（44.8%）で、前回の調査で比較的少なかった同伴者が、自営及び技師、設計、製図、検査グループで伸びている。



「当地で一世」「移住花嫁」等を含め、その対象は依然として一世であるが、配偶者を選ぶ機会及び地域は、「二世」「当地で一世」のほぼ同率を中心にブラジルに移行しつつあることを示している。

1. 未婚者の結婚観について

(ア) 回答

(回答61人)

回答グループ 項目	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	そ の 他	自 営	計	%
日本から 呼びたい	1	2	1	4	0	0	0	8	13.1
当地で 選ぶ	一世	3	7	0	1	4	0	15	24.6
	二～三世	1	5	2	2	8	4	23	37.7
	ブラジル人	0	1	0	1	3	0	6	9.8
	不明	1	6	0	1	1	0	9	14.8
計	6	21	3	9	16	4	2	61	100
回答なし	3	9	4	6	7	3	3	35	36.5

(イ) 分析

回答者数61名中「日本から呼びたい」は13.1%と低率、「当地で選ぶ」は86.9%と圧倒的であり、その対象をやはり「二～三世」と「一世」の日系人で高率を示しているのは、前回調査と同様である。

なお、結婚について「回答なし」は、既婚者9.4%に対し、未婚者36.5%、うち45年着伯12名からみて、着伯間もないため、思案中というところかと思われる。

(3) 親しい友人

ア. 日系人の親しい友人

(ア) 回答

(回答141人)

回答グループ 項目	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	そ の 他	自 営	計	%
0 名	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1 ～ 2	2	3	1	2	0	0	2	10	7.1
3 ～ 5	12	6	5	0	5	3	7	38	27.0
6 ～ 10	9	18	2	3	12	6	3	53	37.0
11 ～ 15	0	4	0	2	1	0	0	7	5.0
16名以上	2	9	0	4	3	1	2	21	14.9
多 数	0	3	0	4	4	0	1	12	8.5
計	25	43	8	15	25	10	15	141	100
回答なし	5	16	3	10	17	3	7	61	30.2

(イ) 分析

質問が「親しい友人」と簡単であったため、受け取り方により親友を意味するものから、軽い意味の友人まで、まちまちであったと思われるが、回答者141名では6～10人(37%)を中

心に、かなりの交友関係をもっていることがわかる。移住当初は、環境の激変により、ノイローゼにかかりやすいなど悩みも多いが、このように友人が多いことは、好ましい状況にあると言える。(友人が1人もいない者はゼロであった。)

#### イ、日系以外の親しい友人

##### (ア) 回答

(回答141人)

回答グループ 項目	技師	設計 検査	電気技 能者	治工具 金型	機 械 仕 上	その他	自 営	計	%
0 名	1	1	0	0	0	0	0	2	1.4
1 ~ 2	4	6	1	3	5	3	2	24	17.0
3 ~ 5	5	8	2	5	9	0	3	32	22.8
6 ~ 10	3	10	1	1	5	4	1	25	17.7
11 ~ 15	4	0	0	0	1	0	0	5	3.5
16名以上	1	2	0	2	1	0	2	8	5.7
多 数	7	16	4	4	4	3	7	45	31.9
計	25	43	8	15	25	10	15	141	100.0
回答なし	5	16	3	10	17	3	7	61	30.2

##### (イ) 分析

日系人の友人の場合と同様、受け取り方がまちまちで、明確に人数を数わずに多数とか、人数不明と書いた者が31.9%を占めている。

しかし、これを含め日系以外の友人を1人以上もっている者は、99%を占め(3~5名がピークを示し23%)、たとえば、日系の会社に勤めていても、ブラジル社会に融け込みつつあることを示している。

#### (4) 1ヶ月の生活費

##### ア. 既婚者の場合

##### (ア) 回答

(回答95人)

回答グループ 項目	技師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	その他	自 営	計	%
300クルゼイロス未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0
300~500 "	1	0	0	0	0	0	0	1	1.1
500~700 "	1	1	0	0	4	2	0	8	8.4
700~1,000 "	1	7	1	1	5	2	1	18	17.9
1,000~1,200 "	2	6	2	3	2	2	4	21	22.2
1,200~1,500 "	3	7	1	3	3	0	4	21	22.2
1,500~2,000 "	10	5	0	0	3	0	2	20	21.0
2,000クルゼイロス以上	1	1	0	1	0	0	3	6	6.3
計	19	27	4	8	17	6	14	95	100.0

##### (イ) 分析

既婚者の場合、「夫婦のみ」と「子供のいる家庭」の生活費は若干異なるだろうが、ここでは既婚者は1本として集計した。

回答者95名中、最高で同率(22.2%)を示した「1,000～1,200クルゼイロス未満」と「1,200～1,500クルゼイロス未満」を合わせると44.4%を占め、1,000～1,500クルゼイロス未満が、既婚者の生活費の平均を示すとみられる。この場合、42家族の生活費平均内訳を示せば次の通りである。

区 分	金 額 (CR\$)	%
住 宅 費	294	24.4
食 料 費	430	35.7
衣 料 費	89	7.4
交 通 費	59	4.9
医 療 費	60	5.0
教 養 娯 楽 費	128	10.6
雑 費	146	12.0
計	1,206	100.0

1. 未婚者の場合

(ア) 回 答

(回答82人)

回答グループ 項 目	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	そ の 他	自 営	計	%
300クルゼイロス未満	0	0	0	1	2	0	0	3	3.7
300～500 "	1	5	3	2	4	1	1	17	20.7
500～700 "	3	7	0	2	3	3	0	18	22.0
700～1,000 "	2	12	1	4	5	2	1	27	32.9
1,000～1,200 "	0	1	1	2	2	1	0	7	8.5
1,200～1,500 "	0	2	0	1	1	0	1	5	6.1
1,500～2,000 "	0	1	0	0	1	0	1	3	3.7
2,000クルゼイロス以上	1	0	0	0	1	0	0	2	2.4
計	7	28	5	12	19	7	4	82	100.0

(イ) 分 析

前回調査(1967年7月～11月)では、サンパウロでの生活費は、大体NCR\$250.00程度とされているが、3年余の間に生計費が約2倍に上昇したこと、及び技術移住者の給与がよくなったこともあってか、未婚者の生活費は、500～1,000が約55%を占めている。

300～500が、これに次ぎ20.7%を示しているが、生活費の内容については、全体の33%を占める「700～1,000クルゼイロス未満」27名の平均をもって示した。

区 分	金 額 (CR\$)	%
住 宅 費	161	20.7
食 料 費	219	28.2
衣 料 費	42	5.4
交 通 費	48	6.2
医 療 費	11	1.4
教 養 娯 楽 費	179	23.0
雑 費	117	15.1
計	777	100.0

## (5) 子供の教育(既婚者)

ア. 回答

(回答60人)

回答グループ 項目	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	その他	自 営	計	%
完全なブラジル式	3	2	0	0	0	0	2	7	11.7
ブラジル式のほかに 日本語教育も	8	9	2	1	4	1	7	32	53.3
日本語のみ	2	6	1	3	4	2	3	21	35.0
計	13	17	3	4	8	3	12	60	100.0

## イ. 分析

子供のいる既婚者71名中、60名の回答者の53.3%が「ブラジル式のほかに日本語教育も」と回答しており、ブラジルの学校に入学させ、更に「日本語学校」又は、「家庭で」日本語を教育していることになる。

「日本語のみ」と回答した35%は「家庭では」を意味するものと思われる。

## (6) 家庭内での使用言葉

ア. 回答

(回答134人)

回答グループ 項目	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	その他	自 営	計	%
ブラジル語	2	1	0	0	4	1	1	9	6.7
なるべく 伯語使用	4	5	1	1	0	0	1	12	9.0
日本語 なるべく 日用	13	26	3	9	16	6	10	83	61.9
日伯 両語併用	4	3	0	1	5	1	5	19	14.2
計	25	41	5	12	25	9	17	134	100.0
回答なし	5	18	6	13	17	4	5	68	33.7
合計	30	59	11	25	42	13	22	202	

## イ. 分析

家庭内での使用言葉は回答者134名中、その61.9%が「日本語」と答えており、職種別においても各グループがその約半数からそれ以上、また、着伯年次別においても、新旧には関係なく平均して各年次とも30%から50%以上を示している。

従って、日系社会によくみられるようにブラジル語単語を混えた日本語が話されているといえよう。

なお、「ブラジル語」「なるべくブラジル語」「ほぼ同じ割合」を加算し、比較的ブラジル語を話している者は、計23.9%を占めている。

## (7) 移住後ブラジル語習得方法

ア. 回答

(回答125人)

項目	回答グループ	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 上 機 仕	そ の 他	自 営	計	%
語 学 校 に 通 学		1	8	0	2	0	1	2	14	11.2
小 中 学 校 に 通 学		6	15	2	4	5	1	0	33	26.4
家 庭 教 師		3	6	0	0	1	1	0	11	8.8
グ ル ー プ で 勉 強		0	0	0	0	0	0	0	0	0
知 人 に 習 う		0	0	0	1	0	0	0	1	0.8
独 学		12	12	6	6	14	6	10	66	52.8
計		22	41	8	13	20	9	12	125	100.0
回 答 な し		8	18	3	12	22	4	10	77	

## 1. 分析

調査記載事項として、例えば個人教授、夜間小学校等、いくつか併記してある場合は、小中学校、語学校、家庭教師の順位でその最優先を選んで集計した。

語学校及小中学校に通学した者は37.6%と前回調査29.2%を上まわっている。語学校については、文協講座(受講)と記載した者が8名含まれている。

前回同様、独学は52.8%と高率ではあるが、内容としては「職場で」「ブラジル人との交際で」等、語学習得の場を職場においている者が多い。

## (8) 現在の語学程度

ア. 回答

(回答173人)

項目	回答グループ	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 上 機 仕	そ の 他	自 営	計	%
A. 仕事上不自由なし		11	14	3	7	17	3	7	62	35.8
B. 新聞は読める		4	3	0	1	1	1	1	11	6.4
C. 日常生活に不自由しない		8	28	4	5	6	4	6	61	35.3
A と B		1	2	0	0	0	0	0	3	1.7
A と C		1	3	0	2	3	1	1	11	6.4
日常生活にも困る		2	6	2	3	6	2	4	25	14.4
計		27	56	9	18	33	11	19	173	100.0
回 答 な し		3	3	2	7	9	2	3	29	14.4

## 1. 分析

「仕事上不自由なし」と「日常生活に不自由しない」が35%台で、回答者の71.1%を占めている。日系企業に就職している場合や、職種上それほどブラジル語を必要としない場合も考えられるが、前回調査の「職場で不自由しない程度」と「買物や旅行に不自由しない」計64%と比較すれば、全体として語学の程度は、多少上昇の傾向にあるといえよう。一般的にみて最近の移住者については、着伯時、既に「片言」程度を話せる者が多く、これらは語学講習等の結果とも考えられる。

## (9) 職場で語学に不自由しない程度になるに要した年月

ア. 回答

(回答138人)

回答グループ 項目	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	そ の 他	自 営	計	%
3ヶ月以内	0	0	1	0	1	0	1	3	2.2
6ヶ月程度	2	1	0	1	1	0	0	5	3.6
1年程度	2	6	2	3	5	2	3	23	16.7
2年程度	3	9	2	4	10	2	2	32	23.2
2年以上	15	24	2	9	12	4	9	75	54.3
計	22	40	7	17	29	8	15	138	100.0
回答なし	8	19	4	8	13	5	7	64	31.7

## イ. 分析

回答者138名中「2年程度まで」が46.7%であり、「2年以上」の75名中「2年半～3年程度」が31名(36年から43年着伯まで)ある。従って、75.4%の者が約3年で仕事上不自由ない状態になることを示している。

44年、45年着伯組は回答者60名中45名で、「2年程度まで」と回答した者が21名(46.7%)あり、全体の%とほぼ同率を示している。

## (10) 副収入の有無

ア. 回答

(回答178人)

回答グループ 項目	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	そ の 他	自 営	計	%
有	4	8	0	0	3	2	5	22	12.4
無	24	47	10	20	31	11	13	156	87.6
計	28	55	10	20	34	13	18	178	100.0
回答なし	2	4	1	5	8	0	4	24	11.9

## イ. 分析

回答者178名中22名(12.4%)が、配偶者の収入も含め、副収入があると答えた。

その内容については、明確でないが、職種からみると、そのほとんどは、本人の技術を生かしたアルバイト(例えば設計事務所の下請等)と推測される。

## (11) 就労生活上特に必要とする伯国法令

ア. 回答

項 目	回答数	項 目	回答数
労働法(就業規則 F.G.T.S等)	47	商 法	2
社会保障関係(INPS F.G.T.S等)	8	貿易・通関	2
税法(所得税他)	11	外国人法	1
会社法	2	交通法規	1
民法(貸借家法他)	2	その他(建築関係法)	1

1. 分析

回答者60名より集計したものであるが、1名で数項目を記載したものは、そのまま記載した。  
最も多く回答のあった労働法については、職種別や着伯年代別に関係なく、広く必要とされていることが判る。

なお、必要性の高いとされた諸法令は、当事業団の実施している補完研修の科目と一致している。

4. 移住に関する感想

(1) 移住してよかったと思いますか。

ア. 回答

(ア) 移住してよかったと思いますか。

(回答190人)

回答グループ 項目	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 上 仕	その他	自 営	計	%
思 っ っ っ	20	42	9	12	25	12	15	135	71.1
不 明	7	13	2	7	7	1	4	41	21.6
思 っ っ っ	1	3	0	3	6	0	1	14	7.3
計	28	58	11	22	38	13	20	190	100.0
回答なし	2	1	0	3	4	0	2	12	5.9

(イ) その理由は何ですか。

よ っ っ っ 思 っ っ っ 理 由	不 明 の 理 由	よ っ っ っ 思 っ っ っ 理 由			
自由で生活し易い	34	い っ っ っ っ 同 じ	1	後 進 性	1
能力が生かせる	15	比 較 の 対 象 な し	1	モ ラ ル が な い	1
視野拡大・体験	14	ま だ わ か ら な い	2	生 活 下 降	2
将来性がある	9	将 来 が 不 明 確	1	言 葉 の 点 で	1
独立が可能	2			サ ラ リ マ ン と し て 変 り な し	1
わからない	1			1 人 で さ び し い	1
回答なし	60	回 答 な し	36	回 答 な し	5

1. 分析

(1) 移住してよかったと思っている者が、回答者190名中、71%を占めている。

この理由としては「生活がし易い」が最高を占め、これは「対人関係が簡単」「のんびりできる」「自由がある」「気候風土が適す」を含んでいる。

この他「能力が生かせる」「将来性がある」「独立が可能」等、渡航時の夢がそのまま生きていることを物語っている。

「不明」とした者が21.6%あり、その理由を答えた者はすくないが、まだ判断を仕兼ねている者が多いと思われる。

よ っ っ っ 思 っ っ っ 理 由 は 14人(7.3%)で、その理由はまちまちであるが、その半数近くは機械仕上で給与の低い層に多く、給与が期待ほど得られなかったことに基づく失望が多いとみられる。

(2) ブラジル国について予想していたのとうですか。

ア. 回答

(ア) ブラジル国について予想していたのとうですか。

(回答175人)

回答グループ 項目	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	そ の 他	自 営	計	%
予想以上に よい	6	12	2	3	7	6	5	41	23.5
予想通り	16	29	6	11	20	5	11	98	56.0
予想以下	5	12	3	4	7	2	3	36	20.5
計	27	53	11	18	34	13	19	175	100.0
回答なし	3	6	0	7	8	0	3	27	13.4

(1) 将来をどう思いますか。

(回答191人)

回答グループ 項目	技 師	設 計 検 査	電 気 技 能 者	治 工 具 金 型	機 械 仕 上	そ の 他	自 営	計	%
有 望	24	44	11	14	33	12	18	156	81.7
有望でない	1	2	0	2	3	0	0	8	4.2
そ の 他	1	5	0	3	1	0	1	27	14.1
計	26	51	11	19	37	12	19	191	100.0
回答なし	4	8	0	6	5	1	3	11	5.4

## イ. 分 析

「予想以上によい」と「予想通り」と答えた者が、全回答者の約80%を占めていることは、渡航前にそれだけ現地事情について勉強をしたか、あるいは堅実な生活設計をもって移住した者が、多いことを示すものと思われる。

ブラジルを予想以下と思った者は20.5%に達するが、この中にも次の質問に対しては、ブラジルの将来性を有望と評価した者が多い。

また前述(1)において、移住してよかったかどうか不明の者でも、ブラジルの将来性は有望とみている者がいるので「不明」であっても、肯定的不明と解してよいであろう。

(3) ブラジル人の性格をどう思いますか。

## ア. 回 答

肯 定 的	否 定 的	そ の 他
楽 天 的	利 己 的	一概に断定できず
社 交 的	怠 惰・意 欲 不 足	そ の 他
親 切	単 純・軽 率	
バイタリティーあり	道 徳 感 念 稀 薄	
	無 責 任	
	感 情 的	
	形 式 的	回 答 な し
		5.6

## イ. 分 析

人種のルツボと言われるブラジルで、その国民性を一言で表現することは不可能であろうが、技術移住者のみだブラジル人が、どういう性格をもっているかは参考になるであろう。

回答者が自由に表現したものを、大まかに肯定的か否定的かにわけてみると、その56%が「楽天的」「社交的」等、肯定的感想を抱いている。



怠惰、意欲不足等、否定的感想をもっている者も多いが、肯定、否定、性格の両面を、重複回答しているものが多いので、否定的回答をしたからと云っても、ブラジル人の性格に失望していることを意味するものではない。

(4) ブラジルで取りたいと思っている技能資格または学歴は何ですか。

ア. 回 答

正規の学校による資格・学歴		そ の 他	
大学卒業の資格	22	語学をマスター	3
Engenheiroの資格	20	設計・製図に関して	2
高等学校卒業の資格	7	生産管理に関して	1
Tecnicoの資格	2	工業関係	1
会計士の資格	2	必要に応じて	2
自動運転免許資格	6	各種のライセンス	1
パイロットの資格	3	必要なし	20
アマ通信士の資格	1	不可能・困難	3
		回答なし	96

イ. 分 析

技術移住者が現在の仕事を続けて行く上で、改めて取らなければならない資格はないが、より高い地位、あるいは給与を得るために、ここに掲げたような資格または学歴をとりたいとしている。

最も多いのが大卒とエンジニアの資格であるが、技術移住者の場合、大学は工科系をさすと思われるので、最終目標はエンジニアとみてよいであろう。

エンジニアの資格は、日本の大卒の資格をブラジルで認めてもらうことにより、得る方法もあるが、何等かの形でブラジルの大学を出ることが賢明な方法である。

(5) 移住後伯国の教育を受けたことがありますか。

ア. 回 答

(ア) 移住後伯国の教育を受けたことがありますか。

(回答171人)

回答グループ 項目	技 師	設 計 検 査	電気技 能 者	治工具 金 型	機 械 仕 上	その他	自 営	計	%
有	10	24	2	7	18	2	2	65	38.0
無	15	27	7	12	18	10	17	106	62.0
計	25	51	9	19	36	12	19	171	100.0
回答なし	5	8	2	6	6	1	3	31	15.3

(イ) あればその種類

種 類	人数	種 類	人数
小 学 校	31	英 語 学 校	4
中 学 校	6	ポ 語 学 校	10
高 等 学 校	1	その他の講習会	7
工業専門学校	1	自動車教習所	1
大学予備校	1		
大学院課程	2	回答なし(有と答えて)	3

## イ. 分析

前掲の(4)は希望の表明であり、これはその実行状況である。こゝでは学校の在学中、または中途退学の者も含めた。

技術移住者にとって、学校へ行くことは仕事と両立させることや、言葉の問題等、大変な努力を要するが、希望の割にはあまり実行されていないと云える。

### (6) 後続技術移住者に対するアドバイス

#### (ア) 回答

しっかりした技術を身につけること	42
ことばをはやく覚えること	27
努力・勉強・まじめな態度	20
現実をみつめ、着実な生活態度	13
協調性・適応性・順応性・柔軟性	9
現地の事情をよく把握してくること	6
永住の覚悟で渡伯すること	5
健康第一を心がけること	5
英語をマスターすること	5
できるだけ若いうちに渡航すること	5
資金を持ってくること	4
独立をめざすこと	3
サラリーだけを目当てにするな	3
専門の技術図書を持ってくること	2
高度の技術をもった専門家が来ること	2
日本品はできるだけもってくること	2
契約書の完全な原本をもってくること	2
無理に移住しないこと	2
ブラジルの実状に適した職種をもってくること	3
どこでも同じ	1
移住すべきでない	1
特になし	3
その他	8
いつでも帰国できる用意をしてくること	1
移住者としてではなく駐在員としてくること	1
将来性は日本の方が有望	1
独身でくると、現地で結婚すること	1
娯楽設備がないので遊び方を覚えてくること	1
度胸が必要	1
腕に自信のあるものはブラジルで試せ	1
会社勤めの場合工具は不必要	1
回答なし	79

#### (イ) 分析

後続技術移住者に対するアドバイスとして自由に書かれたものを纏めたのがこれである。

最も多かったのが「しっかりした技術を身につけること」(42人)で、これはさきに2の(6)に掲げたところと同様、ブラジルを後進国と甘くみて、中途半端な技術で移住してはならないことを忠告しているものである。

「言葉を早く覚えること」の必要性も、当り前のものであるが、技術移住者が身をもって体験したところに基づく貴重な意見とみるべきであろう。

## 5. 独立自営者についてのアンケート

### (1) 独立の動機はなんですか。

調査対象者22人のうち、本問に回答を寄せた独立自営者は15人である。動機としては、渡航前より独立自営を目標としていた、いわゆる初志貫徹者が5人、他はいずれも移住後に独立を決意している。

この10人の主な動機は、「前経営者より経営権移譲の相談を受け、条件的に合意したので買収した」、「勤務会社の経営内容を見て」、「同じ分野の業種が経営的にうまいと判明したため」、「移住してみてもなんとか自営してみようという気持ちになった」等であるが、中には、「旅行先で急に思いついたため」および「給与面で良い職場がなかったため、一思いに独立した」と回答した人も含まれている。

### (2) 独立自営のための所要資金はどのように調達しましたか。

独立自営資金については、自己資金および他からの借入れ金による調達の2方法が考えられるが、回答あった16人のうち、借入れ金に依存したのはわずか2人にすぎず、他はなんらかの形で自力で調達している。自己資金の場合、日本からの携行資金、着伯後の貯金、および資産の処分との回答があったが、これらの割合は下記のとおりとなっている。

資金不要と回答したものについては、技術提供のかたが共同経営者となった人および自宅、借家を利用して日本からの携行機材を使って電気修理店を開業する人など、わずかな資金で独立した人が含まれる。借入金の種類は市中銀行および個人的な融資である。

なお、回答が2つ以上に該当していた人もいるため、合計は調査対象人員数を超過している。

ア	貯蓄	7人
イ	携行資金	5人
ウ	資産処分	3人
エ	資金不要	3人
オ	借入	2人
カ	無回答	6人
	計	26人

### (3) 独立のための準備期間はどの位要しましたか。

独立自営を決意してから実際に会社設立、公式登記までの準備期間は最短1週間から最長8年間までの次のような回答を得た。2カ月～6カ月の準備期間が過半数である。

ア	3カ月未満	5人
イ	6カ月 "	4人
ウ	1年6カ月	1人
エ	2年6カ月	1人
オ	3年	2人
カ	4年	1人

キ	8年	1人
ク	無回答	7人
	計	22人

(4) 経営が一応の軌道に乗るまでにどの位の期間を要しましたか。

一応の軌道という設問の受取り方にもよるが、経営者として見てある程度の黒字経営、顧客・受注先の固定等に達した期間については、次のとおりの回答を得た。この中には独立後期間が短いため、現在軌道に乗せるべく努力中とした人が4人おり、大部分は1年～2年の間でおおよそ安定しているが、1年未満と回答した者は皆無である。

ア	1年～2年	10人
イ	3年	1人
ウ	8年	1人
エ	現在努力中	4人
オ	無回答	6人
	計	22人

(5) 取引先はどのように開拓しましたか。

重複回答があるため合計は調査対象人員数を超過しているが、回答のあった16人の内訳は次のとおりである。とくに開拓をしなかったと回答した2人の業種はいずれも家庭電気修理店である。

ア	友人・知人の紹介を得て開拓	7人
イ	自分で開拓	7人
ウ	外交従業員による開拓	2人
エ	とくに開拓を行っていない	2人
オ	無回答	6人
	計	24人

(6) 経営上困難な問題は何か。

回答を寄せた人が15人おり、重複回答があるが、 $\frac{2}{3}$ の10人が運転資金の不足を問題としていた。言葉の不自由と法令の難解とは通じるものがあるが、法令ではとくに労働法関係で苦勞しているようである。その他と回答した人の主な内容は、部品の入手が困難、優れた協力者がいない、競争が激しい等である。

ア	資金繰り(資金不足)	10人
イ	言葉	3人
ウ	法令	3人
エ	その他	5人
オ	無回答	7人
	計	28人

(7) 従業員の採用方法

重複回答があるが、従業員を採用するにあたっては知人、友人等の紹介者をもっとも多く、次いで直接会社に採用を頼みに訪問してきた者、および新聞広告に対する応募者である。

なお、当地の企業では職業紹介所に求人活動を依頼することも一般的に行なわれているが、独立自営者の回答には皆無であった。

ア	知人の紹介	8人
イ	直接求職	5人

ウ 新聞広告	4人
エ 無回答	8人
計	25人

(8) 今後技術移住者を採用する希望はありますか。

ア あり	12人
イ なし	3人
ウ 無回答	7人
計	22人

(9) 今後独立自営しようとする技術移住者へのアドバイス

13人がアドバイスを述べており、いずれも現在までの体験にもとずいた貴重な意見である。いままでのアンケートのまとめの意味も含め、その中から代表的なものを次に記してみる。

ア 独立当初は信用、業績等の問題もあり、銀行、その他の融資はあまり期待できず、資金繰りに追われることが予想されるので、資金は十分に準備すること。

イ 独立後半年間程は利益のないものと覚悟を決め、家族ぐるみ貧困・辛苦に打勝つ意志をかためること。

ウ 会社経営上の種々の理論、知識は会社を発展させていくうえで不可欠のものであるので、あらゆる機会に吸収するよう心がけること。技術だけがいくら優秀でも企業を経営することはできない。

エ ブラジルで事業をするための心構えは度胸5、経営センス3、技術2である。度胸不足ではいつまでたっても独立できない。チャンスを逃がさないことである。

オ ブラジル国の気候、風土、習慣等に早くなれること。とくに言葉は徹底的に勉強することが大切である。

カ 会社経営上必要な法律については十分理解しておくこと。とくに労働法と税金に関する法律、規則に違反することは、経営上大きなダメージを受けるので、注意が必要である。

キ 良い友人、知人を持つよう常に心がけておくこと。先輩移住者とのつきあいも大切である。

附表1 就労企業一覧表 (日系企業)

会社所在地	会社名	業種	回答者数
Mogi das Cruzes	Howa do Brasil S.A.	紡績機, 織機	20
São Paulo	Electronica Sinkronaizu Ltda.	音楽用レコードプレイヤー及び機械下受加工	2
"	Motoradio S.A. Ind. e Com.	カーラジオ, ポータブルラジオ	8
Varginha M.G.	Meiden Montagen e Instalação Ind. Ltda.	工場設備架付	2
São Paulo	Maquinas Ikemori Ltda.	製紙機械	4
Varginha M.G.	Cia. Brasileira de Caleira e Equi.Pesadas	化学プラント, ボイラー	8
São Paulo	Electronica Kanda Ltda.	トランススター, コンデンサー	2
"	Ind. Electronica Cherry S.A.	ペーパーコンデンサー	1
"	Superfine Ind. e Com. Ltda.	紡糸回漕管	1
Mogi das Cruzes	Ceramica e Velas de Ignição N.G.K. do Brasil	自動車プラグ, タイム	3
São B. do Campo	Toyota do Brasil	自動車	1
Indiatuba S.P.	Yanmar do Brasil	ディーゼルエンジン	3
São Paulo	Supermercado Miyata	スーパーマーケット	1
"	S. Hanshiro & Cia. Ltda.	機械部品輸入販売	2
"	Banco S. Paulo-Tokyo S.A.	銀行	1
"	Toshiba Irne S.A. Ind. e Com.	発電機モーター, 溶接機制御盤, 各電気機器	3
"	Fujimac-Industria de Pesas P/Auto Ltda.	機械部品製造	1
"	Elemek Ind. Elet. Mecanica Ltda.	高低圧配電盤, 制御盤, 起動機	1
"	Maquinas Kôbara	農業用機械	1
Diadema	Kubota Tekko do Brasil	小型トラクター	4
São Paulo	Marubeni-Iida do Brasil	貿易業	1
Guarulhos	Hatsuta do Brasil	農業用噴霧機, グラスタンク, エンジン	2
Diadema	Ind. Com. Nakata	タイロッド, ボールジョイント, エンジン本体部品	13
São Paulo	Polispin - Ind. e Com. S.A.	鋳造用器具	1
"	Bancom Tozan S.A.	銀行	1
"	Osaka S/A Ind e Com.	製綿変換機製品輸出	1
"	Lanficacao Sanyo do Brasil Ltda.	合成繊維製造販売	1
"	Plasticos Sansuy S.A. Ind. Com.	プラスチック製品	1
"	Glasslite Ind. de Plasticos Ltda.	家庭用プラスチック	1
"	Sanki Com. e Projetos de Maquinas Ltda.	機械設計請負	1
"	Eletr Planet Ltda.	電気通信設備工事請負	1
"	Fujibras Instalações Industriais Ltda.	工場設備架付業	1
"	K. Jojima & Cia. Ltda.	貿易販売	1
"	T. Tanaka & Cia. Ltda.	フロッピーレコーダ, エコノカノラ調音機, ブラシカ代理店	1
Guarulhos	NEC do Brasil Eletrônica e Com. Ltda.	マイクロウェーブ通信設備, 自動交換機	1
São Paulo	Marcenaria Meada Ltda.	家具製造, 室内装飾	2
"	Industria de Lampada Sadokin S.A.	各種機械用電球, 各種電球	2
Recife P.E.	Sadokin do Nordeste S.A.	一般家庭用電球, 蛍光灯	1
São Paulo	Sonava Comissaria de Despacho Ltda.	通関事務手続代理	1
計 8 都 市	39 社		102 名

(注) ここに掲げた企業は, 調査回答者のみの就労先である。(外国系についても同じ)

附表2 就 勞 企 業 一 覧 表 ( 外 國 系 企 業 )

公 社 所 在 地	会 社 名	業 種	回 答 者 数
Ribeirão Pires	Constanta Eletronica	抵 抗 器	5
São Paulo	General Electric	電 気 製 品	1
"	Aeromapa Brasil S.A.	航空写真地図	1
"	Volkswagen do Brasil	自 動 車	5
São B. do Campo	"	"	3
São C. do Sul	Z F do Brasil	自動車用ミッション	4
São Paulo	Ford-Willys do Brasil	自 動 車	6
São C. do Sul	Cia. Saad do Brasil	精糖機械、冶金	1
S.Paulo(S.Amaro)	Rolamentos Schaeffler do Brasil Ltda.	各種ベアリング	1
São C. do Sul	Orsi Fundição e Moldagem Especial Ltda.	精 密 鋳 造	1
S.Paulo(S.Amaro)	Catpillar Brasil S.A.	トラクター、農業機械	2
São C. do Sul	General Motor do Brasil	自 動 車	4
Santos	U.S.P.(Instituto Oceanografico)	水産資源調査研究	1
S. Paulo(S.Amaro)	Burroughs do Brasil Maq. Ltda.	各 種 計 算 機	2
"	Metal Leve S.A. Ind. e Com.	ピ ス ト ン	1
São Paulo	Cia. Vidrarias Santa Marina	各種ガラス製品	1
São B. do Campo	Mercedes Benz	自 動 車	1
S.Paulo(S.Amaro)	Alsthom S.A.	各種バルブ、ポンプタービン	1
Osasco	Ind. Eletrica Brown Boveri S.A.	タービン電気炉、変圧器	2
São Paulo	Philco Radio e Televisao Ltda.	ラジオ、テレビジョン、変調機	1
"	Super Test S.A. Ind. Com.	ガソリンポンプ	1
Guarulhos	Microlite S.A. Ind. Com.	乾 電 池	2
S.Paulo(S.Amaro)	Ind. Villares S.A.	エレベーター、ベルトコンベアー	1
Santo André	Controles Automaticos Sermar Ltda.	自動制御装置	2
São Paulo	Setal Instalacoes Industriais S.A.	工場ポンプ設計	1
"	Esc. Tecnic Armando S.A.	建築設計事務所	1
"	QET Sylvania Ind. Com. Ltda.	テレビ、ラジオ、蛍光灯	2
"	Transfab Transportes Tecno Fabris Ltda.	チェーン各種ギア	1
São B. do Campo	Motores Perkins S.A.	ディーゼル エンジン	1
"	Iram SBC Ind. Mecanicas S.A.	自 動 車 部 品	1
São C. do Sul	J. Kecorus	各種金型製作	1
São Paulo	Thermoplan Planeja Termicos Ltda.	空調設備設計、施工	1
Diadema	Ind. Metalurgica Arteb	自 動 車 部 品	1
São Paulo	Cia. Brasileira de Projetos Industriais (Cobrapi)	工場プラント設計(特に製鉄)	1
"	Einar Mortensen S.A.	乳製品包装機輸入代理店	1
"	Editora Enosedernadora Fornar Ltda.	各 種 印 刷	1
S.José dos Campos	Centro Tecnico de Aeroespecial	航空宇宙関係研究所(連邦)	1
S.Paulo(S.Amaro)	Sonia Eletronica Ltda.	トランジスターラジオ製品	1
Osasco	Cobrasma S.A. Ind. e Com.	鋳造品、貨車、信号機等	1

会社所在地	会社名	業種	回答者数
São Paulo	Tropical Ltda.	テープレコーダー(アカイ)代理店及び修理	1
"	Arno S.A. Ind. e Com.	電気モーター, 各種家電	1
S.Paulo(S.Amaro)	Wapsa Autopeças S.A.	自動車用部品(ダイナモ, ボルテージ, レギュレーター)	1
"	Walita S.A. Eletro Ind.	各種家電製品製造	1
"	Electroalloy S.A.	自動車用部品の鋳造	1
São Paulo	Ind. Mecanica Estender	自動車アクセサリ	1
"	Inal S.A. Ind. Nacional de Aços.	各種鉄板切所	1
S.Paulo(S.Amaro)	Stromag-Friccoes e Acoplamentos S.A.	プラント断手	1
Diadema	Metalurgica Brasitalia Ltda.	自動車部品(鍛造)	1
São Paulo	Siemens do Brasil S.A.	電話装置 各種機械	1
"	Companhia Telefonica Brasileira	電 話	1
"	Bressinter S.A. Ind. e Com.	自動車部品, 石油切さく用部品	1
計 10 都市	51 社		78

附表3 自営企業一覧表

会社所在地	会社名
São Paulo	Mecanica Orita
"	Nissei S.A. Ind. e Com.
"	Altex Eletronica Ltda.
"	Fotostadio Kamikariya
"	Daisei Ind. Metalurgica Ltda.
"	Fundição Fremar Ltda.
"	Eletronica Hamai
"	Model Fundi-Modelo Para Fundição Ltda.
Porto Alegre RGS	Eolic S.A.
"	Intral S.A. Ind. de Material Eletricos
C.Granda M.T.	Restaurante "HONKON"
Santos S.P.	Eletronic Irc. Kiyoshi Baba
São Paulo	TV. Radio Concerto "YAMA"
"	Marcenaria Tsutomu Kuramoto
"	Emi Montagens Industriais Ltda.
"	Yasuteru Harada
Vitoria E.S.	Soci. Fornecedora de Bordo Vitoria Ltda.
São Paulo	Erica
"	Tecnica Novo Mundo
"	Eletronica Shibuya
"	Sanki Comercio e Projetos de Maqui. Ltda.

(注) 上記独立自営者の中には、技術移住者が共同経営しているものもある。



附表4 回答者一覽表

渡航 年次	氏名	職	種	現在の就労企業	出身県	現住所	備考
36	折田光	自営 (機械)		折田機械工業	岡	S. Paulo	
36	高梨久	工場自営		イントラール電気機器工業	神奈川	"	
36	岡本文郎	自営 (下請機械加工)		シンクロナイズ電子工業	東京	"	
36	筒井良和	" (自動車ラジオ)		ニセイ商工	長崎	"	
36	谷俊夫	金型工		Constanta	広島	Ribeirão Pires	
36	宮沢澄男	設計第二課長		"	長野	"	
36	秋元貞一	電気技師		General Electric S.A	神奈川	S. Paulo	
36	伊東昭二	金型工		Valks Wagen do Brasil	"	"	
36	伊藤正	治工具仕上工		Constanta	山形	"	
36	鈴木清一	製作部長		Aeromapa Brasil S.A	東京	S. Paulo	
36	小林彦	自営 (カーラジオ・T.V)		アルテックス電気商会	"	"	
37	山元彦	技術部査定係長		ブラジル豊和工業	宮崎	Mogi das Cruzes	
37	吉田彦	検査係長		"	山崎	"	
37	福沢哲男	フレアシス工		Z. F. do Brasil S.A	東京	S. Paulo	
37	上飯屋隆	機械組立工		ブラジル豊和工業	神奈川	Mogi das Cruzes	
37	蛭間将雄	フレアシス工		"	"	"	
37	浅野中	機械製造課長		Cia Saad do Brasil	千葉	São Caetano do Sul	
37	田崎久男	鑄造技術係長		ブラジル豊和工業	埼玉	Mogi das Cruzes	
37	岩生秀	ブレーナー工		"	茨城	"	
37	杉山彦	技術指導者		シンクロナイズ電子工業	神奈川	S. Paulo	
37	神谷秀	工場長		モトラジオ商工	"	"	
37	瀬谷章	自営 (自動車・部品)		ダイエー機械工業	"	"	自営準備中

渡航 年次	氏名	職	種	現在の就労企業	出身県	現住所	備考
37	雅楽川 政勝	シグボローラ盤工		Constanta	神奈川	Ribeirao Pires	
37	佐藤 五郎	金型工		"	静岡	"	
37	倉斗 義人	電気技能者		メイデン	神奈川	Varginha M.G.	
37	宇佐美 光男	金型工		Ford Willlys do Brasil S.A.	"	S. Paulo	
38	長瀬 昌機	フライス盤工(職長)		Rolamentos Schaeffler do Brasil	"	"	
38	小林 操	自営(非鉄鑄造)		フレマール鋳物工業	埼玉	"	
38	鈴木 毅	鑄造		OPSI Fundição e Moldagem Especial Ltda.	"	"	
38	根本 信	機械工		Cater Pillar do Brasil	"	"	
38	中村 政元	治工具仕上工		"	神奈川	"	失業中
38	森 隆	金型設計		General Motor do Brasil	"	"	
38	岩井 元	水産技師		サンパウロ大学海洋研究所	東京	Santos	
39	佐藤 一夫	金型工		Valks Wagen do Brasil	埼玉	S. Paulo	
39	坂野井 進	指導監督		池森機械製作所	福島	"	
39	大矢 貞男	プレス金型設計		Volks Wagen do Brasil	神奈川	"	
39	柏木 常	研磨工		Burroughs Eletronica	"	"	
39	渡辺 栄一	設計(自動車・車体関係)		Burroughs do Brasil Maq.	"	"	
39	柳町 恒夫	工場長		Volks Wagen do Brasil	茨城	"	
39	増淵 紘一	治工具仕上工		シンクロナイズ電子工業	神奈川	"	
39	滝本 昌	設計		General Motores do Brasil	茨城	S. Bernal do Campo	
39	真田 健	計装技術者		Volks Wagen do Brasil	"	S. Paulo	
39	沢口 幹	自営(T.V.電気修理)		Metal Leve S.A.	神奈川	"	
39	浜下 隆也	制御盤設計		浜井商会	富山	"	
39	長根 正	工程管理		ブラジル豊和工業	茨城	Mogi das Cruzes	
39	前田 巧	機械設計		Vidraria Sta. Marina	兵庫	S. Paulo	
39				ブラジル三菱重工業	三重	Varginha M.G.	

渡航 年次	氏名	職	種	現在の就労企業	出身県	現住所	備考
40	角長六	設計		ブラジル豊和工業	千葉	Magi das Cruzes	
40	外崎七五三男	治工具仕上工		カンダ電子工業	青森	S. Paulo	
40	藤田明久	電気技術者		Philco Radio e T.V.	東京	"	
40	小樽山暢	自営(技術部長)		チェリ-無線工業	東京	"	
40	花元義	"(鋳造用木型)		Model Fundi-Modelo Para Fundição Ltd a.	広島	"	
40	鈴木芳元	機械設計		Mercedes Benz do Brasil	愛知	S. B. do Campo	
40	平松治允	品質管理		ブラジル特殊陶業	長崎	Magi das Cruzes	
40	大河井香	設計製図工		Alsthom S.A.	秋田	S. Paulo	
40	平塚修	自営(販売店)		Eolic S.A.	東京	Porto Alegre	
40	田辺彰	機械設計・製図		Ind. Elet. Brown Bovere	東京	Osasco	
40	須藤英二	仕上工		Willlys Overland do Brasil	神奈川	S. Paulo	
40	大熊章	自営(レストランテ)		レストランテ香港	東京	Campo Grande	
40	松本幸	フライイス工		Z.F. do Brasil	埼玉	S. Paulo	
40	大池三	ダイカスト金型設計		Super Test S.A.	兵庫	S. Bernaldo do Campo	
41	小池利	自営(設計・機械設備)		サンキ設計事務所	広島	S. Paulo	
41	大井義	設計製図工		ブラジル・トヨタ自動車	愛知	"	
41	平井一	金型工		Ford Willys do Brasil S.A.	兵庫	"	
41	斉藤茂	フライイス工		Micro Littl do Brasil	福岡	Guarulhos	
41	馬場林	自営(漁船の配線)		馬場商会	長崎	Santos	
41	平添昭	"(電気製品販売修理)		ヤマ商会	東京	S. Paulo	
41	阿部義	機械主任		池森機械製作所	東京	"	
41	磯達	研磨工		Volks Wagen do Brasil	山梨	Maua	
41	竹中克	機械設計		ブラジル・ヤンマー	山梨	Indaiatuba	
41		店員		スーパーママーケット宮田	山梨	S. Paulo	

渡航 年次	氏名	職	種	現在の就労企業	出身県	現住所	備考
41	菊地 雅夫	機械設計工		Ind. Villares S.A.	神奈川県	S. Paulo	
41	池田 秋久	機械設計製図員		Cater Pillar Braril S.A.	鹿児島	"	
41	長谷川 人	金型工		Contoles Automaticos Sermar	神奈川県	Santo André	
41	蔵本 勉	自営(家具一般製造)		蔵本木工所	愛知県	S. Paulo	
41	小林 茂	旋盤工		General Motor do Brasil	大阪府	S. Caetano do Sul	
41	広瀬 昭	設計士		Setal Instalação Ind. S.A.	広島	"	
41	西山 壮	機械仕上げ工		池森機械製作所	"	"	
41	松永 徹	治工具仕上げ工		Ford Willys do Brasil S.A.	宮崎	"	
41	遠藤 史男	技術指導工		ブラジル三菱重工業	愛知県	Varginha M.G.	
41	萩原 進	製図工		ESU Técnico Armando S.A.	東京	S. Paulo	
41	小林 吉	機械設計		Colotto SOC. Civil Ltda	"	"	
41	高田 進	品質管理		Tromstap Transportadores Tecno-fabris	"	"	
41	小川 二	機械設計製図		G.T.E. Sylvania Ind. Com. Ltda	神奈川県	"	
41	大川 威弘	機械設計		チェリ一無線工業	"	"	失業中
42	菅 梶	治工具仕上げ工		ブラジル三菱重工業	広島	Varginha M.G.	
42	梶川 治	治具フライス		Volks Wagen do Brasil	神奈川県	S. Paulo	
42	渡辺 守	設計製図工		Z. F. do Brasil	埼玉県	S. Caetano do Sul	
42	飯田 一郎	金型工		Motores Perkins S.A.	東京	S. Paulo	
42	今村 勇	機械設計製図(保守)		モトラジオ商工	神奈川県	"	
42	安部 典英	自営(製鉄計画・工事)		花城商会	"	"	
42	吉村 二	銀行員		エミ機械据付工業	"	"	
42	平高 実光	自営(機械修理)		サンパウロ東京銀行	兵庫	"	
42	原田 裕	研削工		原田修理店	"	"	
42	藤沢 忠	機械		Z. F. do Brasil	神奈川県	"	
42	渡辺 雄	機械		General motores do Brasil	宮崎	"	

渡航 年次	氏名	職	種	現在の就労会社	出身県	現住所	備考
42	西川 武雄	電気組立工		東芝イールネ	神奈川県	S.B.do Campo	
42	安古 延正	金子型師		J. Kekarus. Centro Tecnico de Aeroespacia (Orgão Federal)	"	S. Caetano do Sul	
42	林 義弘	金子型師		Controles Automatico SERMAR	愛知県	S. José dos Campos	
42	大木 貞次	試験係員		東芝イールネ	兵庫県	Santo André	
42	福田 次郎	自営(商業)		Soc. Fornecedora de Bordo Vitoria Ltda	"	S.B.do Campo	
42	酒井 保治	空気調和設備設計製図工		Thermoplan Plan Termicos	長崎県	Vitoria	
42	道 保	金型工		Industria Arteb S.A.	神奈川県	S. Paulo	
42	植田 裕	フライヌ工		フジメック機械工業	広島県	"	
42	谷 紀	電気設計士		Cia Brasileira de Projetos Industriais (Cobrapi)	"	"	
42	秋葉 征人	電子技術者		東芝イールネ	神奈川県	"	失業中
42	青木 喜賢	検査工		エレメッキ電気工業	"	"	
42	松村 進	機械(電気関係)設計製図工		Brassinter S/A Ind. e Com. ブラジル久保田鉄工	静岡県	S. B do Campo	
42	鳴滝 祥	設計係			兵庫県	S. Paulo	
42	小笠原 澄	家具職者		中田商工	島根県	"	
42	西田 清	機械技術者		ソニア・エレクトロニカ	手京	"	
42	須藤 敏也	機械製図者		Einar Martensen S.A. ブラジル三菱重工業	東京	"	
42	波多野 一彦	技師(技術課)		神原工業	京都府	"	
42	森田 繁	機械設計		Editoia e Encadoinadoia Formar	大阪府	"	
42	志水 龍	オフセット印刷工		Brown Boveri S.A.	"	"	
42	渡辺 定	製缶工		モトラジオ商工	兵庫県	Osasco	
42	村上 光	機械組立工		丸紅飯田	鳥取県	S. Paulo	
43	河合 敏	複写機修理要員			北海道		

航年次	氏名	職	種	現在の就労会社	出身県	現住所	備考
43	吉原 三	金型 仕上工		モトラジオ商工	東京	S. Paulo	
43	鈴木 富士郎	鋳物・治金技師		Cobrasuma S.A. Ind. e Com.	知	S. B. do Campo	
43	菅 三男	機械設計主任		初田工業	大阪	Guarulhos	
43	坂 幸弘	電器技術者		Tropical Ltda.	"	S. Paulo	
43	岩 勝男	金型組立工		Ford Willys do Brasil	北海道	"	
43	中 沢 弘	中ぐり盤工		中田商工	神奈川県	"	
43	阿 部 夫	溶接・板金工		"	北海道	"	
43	鶴 田 次	機械設計		ブラジル豊和工業	山梨	Mogi das Cruzes	
43	永 野 実	自営 <small>(お加み製造販売)</small>		エリカ	岡山	"	
43	清水 茂	査定業務		ブラジル豊和工業	山	"	
43	久 秋 能	機械設計		ブラジル久保田鉄工	富	Diadema	
43	井 戸 元	銀行員		東山銀行	石川	S. Paulo	
43	林 茂	金型設計		モトラジオ商工	東京	"	
43	川 野 友	製図工		Arno S.A. Ind. e Com.	"	"	
43	鈴 寺 義	製造管工		ポリスピン商工	島	"	
43	長 春 三	製図管工		Wapsa Avto Peça S.A	新潟	"	
43	中 野 正	機械技能者		花城商会	千葉	"	
43	西 野 道	フライス盤工		中田商工	神奈川	"	
44	野 原 三	生産技術者		ブラジル豊和工業	大阪	Mogi das Cruzes	
44	今 田 栄	金型仕上工		中田商工	神奈川	S. Paulo	
44	高 橋 恒	旋盤工		"	"	"	
44	結 城 健	治工刃具進度管理		ブラジル豊和工業	"	Mogi das Cruzes	
44	中久木 紀	設計製図		Sonave Comissario do Despachos Ltda.	知	"	
44	前 田 彦	貿易貨物取扱人		初田工業	大阪	S. Paulo	
44		フレアイス工			三重	Guarulhos	

渡航 年次	氏名	職	種	現在の就労企業	出身県	現住所	備考
44	北久	(電子技能者)自営		テグニカ・ノボ・ムンド	三重	S. Paulo	
44	文隆	助手		大阪屋商工	奈良	"	
44	温直	機械設計		ブラジル豊和工業	京都	Magi das Cruzes	
44	村紀	製工		Walita S.A. Eletro-Industria	茨城	S. Paulo	
44	五木尊	自営(服布地販売店)		中田商工	東京	"	
44	不破良	化学(プラスチック加工)		三洋毛織	知取	"	
44	亀井勇	機械技術者		サンスイ・プラスチック商工	鳥山	"	
44	片岡雅	機械修理工		ブラジル豊和工業	山口	Mogi das Cruzes	
44	坂口雅	管絃(建築物設計)		グラスリッチ・プラスチック工業	愛山	S. Paulo	
44	藤谷隆	機械設計		ブラジル豊和工業	山口	Mogi das Cruzes	
44	小笠原祥	機械設計		"	愛山	"	
44	竹内孝	機械設計		"	愛山	"	
44	上野依	機械技術者		ブラジル三菱重工業	神奈川	S. Paulo	
44	藤原和	機械技術者		ブラジル・ヤンマー	千葉	Indaiatuba	
44	小尻修	機械設計		"	茨城	"	
44	植野司	電気技能者(工場研究)		ブラジル特殊陶業	大阪	Mogi das Cruzes	
45	瀬口卓	機械		池森機械製作所	京都	S. Paulo	
45	前原征	冶金設計		Electroalloy Com. e Ind. Ltda.	木橋	S. B. do Campo	
45	大島修	電気技術者		サンキ設計事務所	神奈川	S. Paulo	
45	鈴木春	機械設計		エレトロ・フナネット社	埼玉	"	
45	上重隆	機械設計		東北伯サドキン電気工業	大阪	Recife	
45	田島哲	機械製工		ブラジル久保田鉄工	千葉	S. Paulo	
45	大田種	治工具仕上工		"	神奈川	"	
45	中谷三	機械調整工		Ind. Mecanica Estlander Ltda.	"	"	
45	福田力	機械設計		モトラジオ商工	"	"	

渡航 年次	氏名	職	種	現在の就労企業	出身県	現住所	備考
45	福島 信宏	製図工		INAL. S.A.	大阪	S. Paulo	
45	友利 達男	電気設備設計技師		フジプラスチック建設設計会社	沖大	"	
45	垣花 八洋夫	電気技術師		城島商会	東京	"	失業中
45	小田 俊勝	修理技術員		中田商工	兵庫	S.B. do Campo	
45	徳永 敏夫	設計製図者		Técnica Cine Foto Optimar Ltda.	広島	S. Paulo	
45	石木 勇二	電気技術上工		中田商工	東京	"	
45	小島 裕一	金型仕工		"	東京	"	
45	横倉 孝	製図工		Stromag S.A.	神奈川	"	
45	宮野 入	機械設計者		フラジール豊和工業	愛知	Mogi das Cruzes	
45	溝口 重雄	電気技術者		"	愛知	"	
45	村田 永吉	電気設計技術者		ブラジル日本電気	神奈川	"	
45	浦崎 有弘	電気設計技術者		Metalurgica Brasitalia Ltda	神奈川	S. Paulo	家庭電器修理店開店 (1971年12月)
45	指宿 勝	機械技師			神奈川	"	
45	渋谷 史	自営者		モトラジオ商工	東京	"	
45	後藤 尚三	電子技術工		ブラジル三菱重工業	京城	"	
45	前野 健孝	機械製図工		メイデン	京城	Varginha M.G.	
45	藤原 新太郎	機械組立据付工		ブラジル特殊陶業	兵庫	"	
45	松北 治	窯業技術者		Siemens S.A	愛知	Mogi das Cruzes	
45	北尾 清	設計製図工		カンダ電子工業	京都	S. Paulo	
45	香月 秀盛	電子機器修理工		中田商工	佐賀	"	
45	田島 九州男	金型仕上工		C.T.B. (電話局)	東京	"	
45	広橋 勝造	電話修理工		サドキン電球工業	神奈川	Guarulhos	
45	山辺 純治	治工具仕上工		前田木工所	東京	S. Paulo	
45	松川 征之	家具製作工		サドキン電球工業	東京	"	
45	山形 元博	貿易業務技術者					



渡航 年次	氏名	職 種	現在の就労企業	出身県	現住所	備考
45	野口文雄	治工具仕上工	中田商工	長野	S. Paulo	
45	横内健次	製 図 工	ブラジル三菱重工業	岐阜	Varginha M.G.	
45	西 敏 行	建設機械設計及び生産計 画	中田商工	京都	〃	
45	加藤正春	旋 盤 工	中田商工	愛知	Diadema	

# 技術移住者実態調査票

整理番号	区分	在留中・他国転住・帰国・その他( )
調査日	197 年 月 日	現在職 職業・その他( )
調査員	職 種	職業・その他( )
工業大学(専攻)	工業高校( )	職業訓練所( )
職業訓練校( )	専門学校( )	その他( )
現職形態	職業団体の役員・その他( )	手続職種
現職	不勤確	公社債
現在地	本社(勤務所):	工場:
最長字歴	年齢	資格
19 年 月 日	未既婚別	未既婚別
出身	有( )人	有( )人
家族状況	配偶者・子供( )人	他( )人
日本・ブラジル(帰化)年	配偶者・子供( )人	他( )人
資本形態	週日制	週日制
労働時間	週日制	週日制
入社年月	入社年月	入社年月
退社年月	退社年月	退社年月
会社名	会社名	会社名
資本形態	週日制	週日制
労働時間	週日制	週日制
入社年月	入社年月	入社年月
退社年月	退社年月	退社年月
会社名	会社名	会社名
資本形態	週日制	週日制
労働時間	週日制	週日制
入社年月	入社年月	入社年月
退社年月	退社年月	退社年月
会社名	会社名	会社名
資本形態	週日制	週日制
労働時間	週日制	週日制
入社年月	入社年月	入社年月
退社年月	退社年月	退社年月
会社名	会社名	会社名
資本形態	週日制	週日制
労働時間	週日制	週日制
入社年月	入社年月	入社年月
退社年月	退社年月	退社年月
会社名	会社名	会社名

海外移住事業団 サンパウロ支部  
JAMIC - Imigração e Colonização Ltda.



調査日	19 年 月 日
技術者姓名	

# アンケート調査票

質問	回答	否	質問	回答	否
1 就労状況と意識 (自営者は6.5に答えて下さい)					
(1) 現在の会社を選んだ理由			賃 賃	A 有、 B 無、	
(2) 現在の職場に満足していますか			(7) 雇 雇	有る人はその理由に印をつけて下さい	人間関係 給与・職務が合わない・
・ 人 間 関 係	A 満足している B 普通 C 不満足				会社に将来性がない・その他
・ 仕 事	A 満足している B 普通 C 不満足		(8) 独 立 希 望 の 有 無	A 有、 B 無、	
・ 厚 給 金 給 付	A 満足している B 普通 C 不満足		独立する場合その理由は同ですか		
・ そ の 他 ( )	A 満足している B 普通 C 不満足		(9) 独 立 計 画 が 具 体 化 し て い れ ば そ の 感 覚 を		
(3) 給与は他の従業員と比較し妥当に評価されていると思いますか	A 思う B 普通 C 思わない		○ 「現経営会社経営陣」に計画と任配して		
(4) 給与は他社と比較し妥当だと思いますか	A 思う B 普通 C 思わない D 不明		記入して下さい		
(5) 現在の仕事はあなたにの技術に過していると思	A 思う B 普通 C 思わない		(10) 本人を中心とする職事における職種別選定		
いますか	A 思う B 普通 C 思わない		(上項、左右両選職種、下選職種の職種)		本人
(6) 現在の会社は完全な能力主義だと思いますか	A 思う B 普通 C 思わない		(11) 自己の関連業務について独立自営する可能		
			性についての自由問の比較		

2 技術および企業環境		問	答	頁	問	答
① 機械施設、工具等は日本と比較して進歩して(又は遅れて)いる点は何ですか 進歩して(又は遅れて)いる点は何ですか いると思いますか	問	A 進歩している、B 同程度、C 遅れている		6)	あなたの業績について日本で評価をしておいた方が良いと思う専門技術は同ですか	
	答					
	問	A 進歩している、B 同程度、C 遅れている				
② 生産管理、業務管理等は日本と比較して進歩していると思いますか 進歩して(又は遅れて)いる点は何ですか	問	A 進歩している、B 同程度、C 遅れている				
	答					
	問	A 進歩している、B 同程度、C 遅れている				
③ 職種転換の有無 ○ 転換した人は転換前後の職種名 ○ 転換の理由 ○ 転換結果の良否	問	A 有 B 無		3	生 活	
	答					
	問	A 有 B 無		1)	当地に定住しますか	定 住 返 任 補 員
④ 現職が会社の工程改善、作業能率向上等に注目を払っている程度	問	上 中 下		2)	結婚	
	答					
	問	上 中 下		○ (既婚者) 配偶者は.....1世		(日本で結婚、移住花嫁、当地で結婚) 2世 日系以外 ○ (未婚者) 配偶者は.....日本から呼びたい 当地で選ぶ 当地で選ぶ場合の希望.....1世、2~3世、ブラジル人
⑤ 会社の工程 作業能率改善に参画した例があれば その具体例を書いて下さい。	問			○ (親しい友人		日系 人、 日系以外 人
	答					



質 問	回 答	問 題	年 月 年 月
(4) プラザで取りたいと思っ ている技術資格 又は 学歴は向ですか		(5) 独立のための準備期間などの 広さはいかがでしたか	
(5) 移民母国の教育を受け たことがありますか あればその種類	A 有 B 無	(6) 経営が一応の軌道に乗る までにどの位の期間を 要しましたか	年 月
(6) 後継技術移住者に対する アドバイス		(7) 取引先はどのように開 拓しましたか	
		(8) 経営上困難な問題は 何ですか	
		(9) 従業員採用方法	新聞広告 職業紹介所 知人 直接求職者
(7) その他		○ 今後技術移住者を採用 する希望はありますか	A 有 B 無
5 独立 自営 商用 アンケート		(6) 経営上の抱負	
(1) 独立の動機は何ですか		(9) 今後独立しようとする 技術移住者への アドバイス	
(2) 独立 自営 のための 所要資金はどのように調達 しましたか			

